

上越市通年観光計画(案)

— 目 次 —

第1章 上越市通年観光計画の概要 ……3	第3章 通年観光の基本方針 ……45
1 計画の概要 ……4	1 基本方針 ……46
	2 春日山地域の方向性 ……54
第2章 上越市における通年観光の背景 ……8	3 直江津地域の方向性 ……62
1 上越市の課題 ……9	4 高田地域の方向性 ……69
2 国の観光施策 ……13	第4章 地域別施策 ……76
3 上越市の観光の現状 ……16	1 観光地域づくりコンセプト ……77
4 春日山地域の現状 ……24	2 春日山地域の施策 ……80
5 直江津地域の現状 ……29	3 直江津地域の施策 ……88
6 高田地域の現状 ……34	4 高田地域の施策 ……94
7 主なまちづくりの経緯と今後の 主要イベント ……39	付属資料 ……100

第1章 上越市通年観光計画の概要

1 計画の概要

上越市通年観光計画の概要-上越市の観光地域づくり-

1 計画期間

令和6(2024)年度～令和12(2030)年度

2 基本方針

■ 通年観光の考え方

- 目指す姿 : 歴史・文化の伝承
 目的(あるべき姿) : 来訪者が市民の日常に溶け込み楽しむ観光地域
 目標(具体的指標) : 繁忙期(4月、7月、8月)以外の入込客数の底上げ
 手段(目標を達成するための方法) : 観光地域づくり

■ 上越市の観光地域づくりの概要

- ①「まち・暮らしづくり」と「新しい観光産業の創出」の両立を図る。
- ②1日からの住民をまちに迎える。
 まずは、日帰り観光から1～2泊の宿泊観光を目指す。
- ③ビジネスが生まれやすいコンスタントな集客を目指す。
- ④通年観光の効果が地域全体に及ぶよう取り組む。

■ 観光地域づくりコンセプト

- 全体 ”越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気”
- 春日山 ”義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」”
- 直江津 ”歴史と人情の「日本海うみまち」”
- 高田 ”雁木でつながる「花咲く共助の城下町」”

3 計画の目標(令和12年度)

- 当面目標とする通年観光のイメージ
 「継続的な集客により民間ビジネスや観光サービスが生まれ始める状態」
- 数値目標

通年観光計画	3地域の月別観光客数(イベントを除く)		(令和元年度比)1.3倍
	一人当たり観光消費額	県外日帰り	(令和元年) 4,345円 → (県水準) 11,000円
県外宿泊		(令和元年) 17,380円 → (県水準) 35,000円	
第7次総合計画	4-2-1観光振興の強化	市内への観光客入込数	(令和元年-3年平均) 3,170千人 → 6,040千人
		観光消費額	(令和元年-3年平均) 10,500百万円 → 25,400百万円
		上越観光Naviの閲覧件数	(令和3年度) 1,575,000PV → 1,890,000PV

4 主な施策

【総概算事業費4,919百万円】

■ 春日山地域 【概算事業費3,680百万円】

- ✓ 植林伐採
- ✓ (仮称)馬場広場改修
- ✓ 「総構」復元整備
- ✓ 観光拠点施設整備

■ 直江津地域 【概算事業費1,005百万円】

- ✓ 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)
- ✓ D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存
- ✓ 直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験・自立的な事業スキームの検討
- ✓ 船見公園環境整備

■ 高田地域 【概算事業費 234百万円】

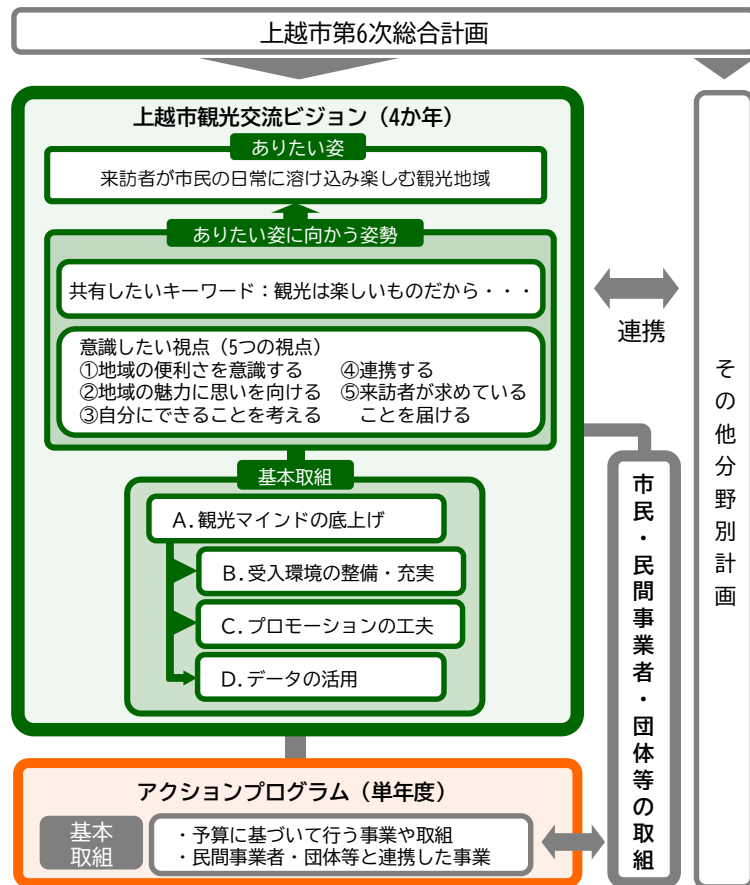
- ✓ 雁木・町家の保全に取り組む持続可能なまちづくり組織の検討
- ✓ 観光案内在り方検討
- ✓ 浄興寺大門通りの景観整備
- ✓ 枅形門再現可能性調査研究

計画の位置づけ

【令和2年度～令和5年度】

「上越市観光交流ビジョン」※策定当時

- 「上越市観光交流ビジョン」は、市民が共有したい「ビジョン」に焦点をあてるものです。ここでいう「ビジョン」とは、「ありたい姿を描いたもの。理想像。未来像。」との意味で用いています。
- 本ビジョンの期間は4か年とし、次期総合計画の策定(予定)や、今後の観光の動向などを踏まえ、見直しについて検討します。
- 本ビジョンに基づき行政が行う事業や民間事業者・団体等が行政と連携して取り組む事業を取りまとめた「アクションプログラム」をこれとは別に毎年度作成します。
- ビジョンの体系は、下図のとおりです。

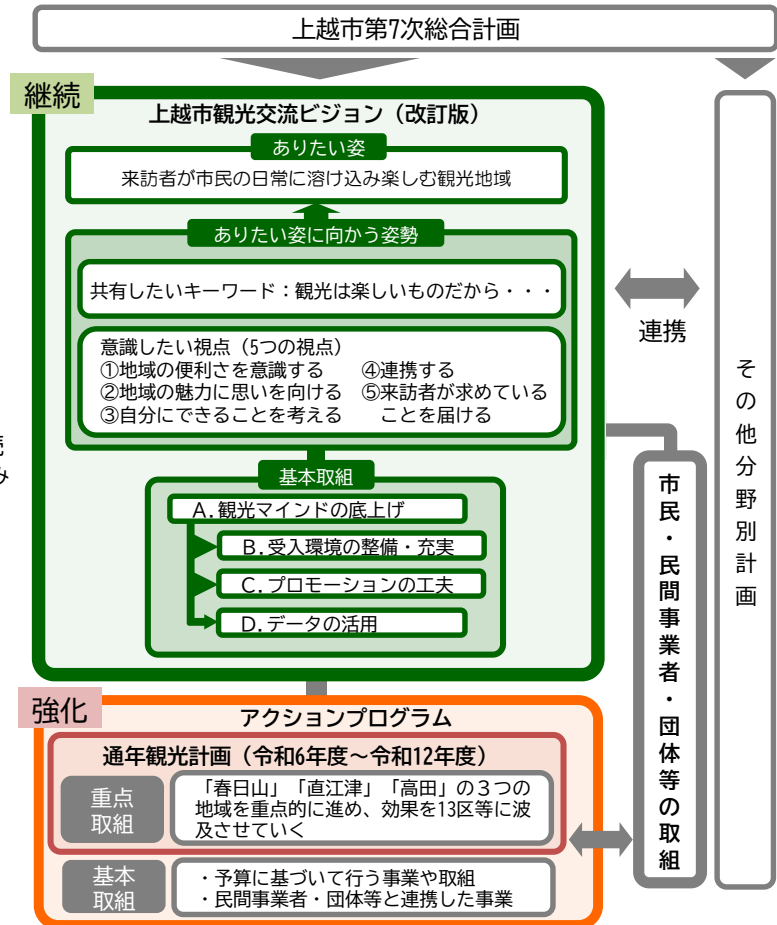


【令和6年度～】

「上越市観光交流ビジョン」

- 「ありたい姿を描いたもの。理想像。未来像。」の意味である「ビジョン」は、進むべき道標として令和6年度以降も見直すことなく目指していきます。
- また、上越市第7次総合計画の基本目標の1つである「魅力と活力があふれるまち」は、本ビジョンで共有したいキーワードや意識したい視点、基本取組を継続的に取り組んだ結果として現れる「まちの様子」です。
- 令和6年度からは、単年度としていた「アクションプログラム」に通年観光の実現に向けた重点取組を加えてさらに強化します。
- 見直し後のビジョンの体系は、下図のとおりです。

上越市観光交流ビジョンを継続
※計画期間や文言整理等の変更のみ

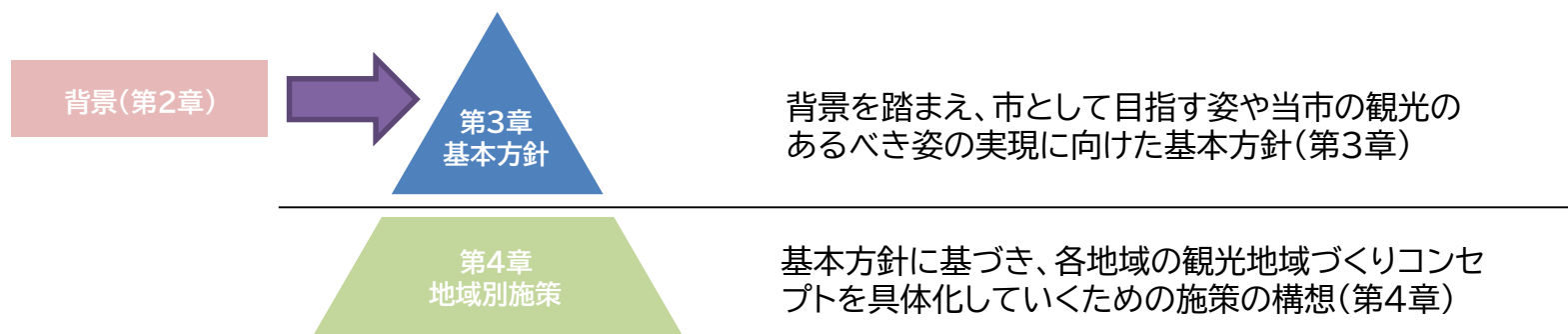


計画の構成と計画期間の考え方

計画の構成

本計画は、4つの章で成立しており、第1章、2章では主に外形的な項目を整理し、計画の基本事項を示した「上越市通年観光計画の概要」と、当市の課題や観光の現状等を示した「上越市における通年観光の背景」で構成している。

第3章、4章では、前半の背景を踏まえ、市として目指す姿や当市の観光のあるべき姿の実現に向けた「通年観光の基本方針」と、基本方針に基づき各地域の観光地域づくりコンセプトを具体化していくための施策の構想を示した「地域別施策」で構成している。



計画期間の考え方

計画期間は、上越市第7次総合計画の計画期間(令和5年度から令和12年度まで)と終期を合わせ、令和6年度から令和12年度までの7年間とする。

計画の構成のうち、「第3章 通年観光の基本方針」は令和12年度を超えて将来的に目指す姿を見据えた基本方針とし、「第4章 地域別施策」は令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

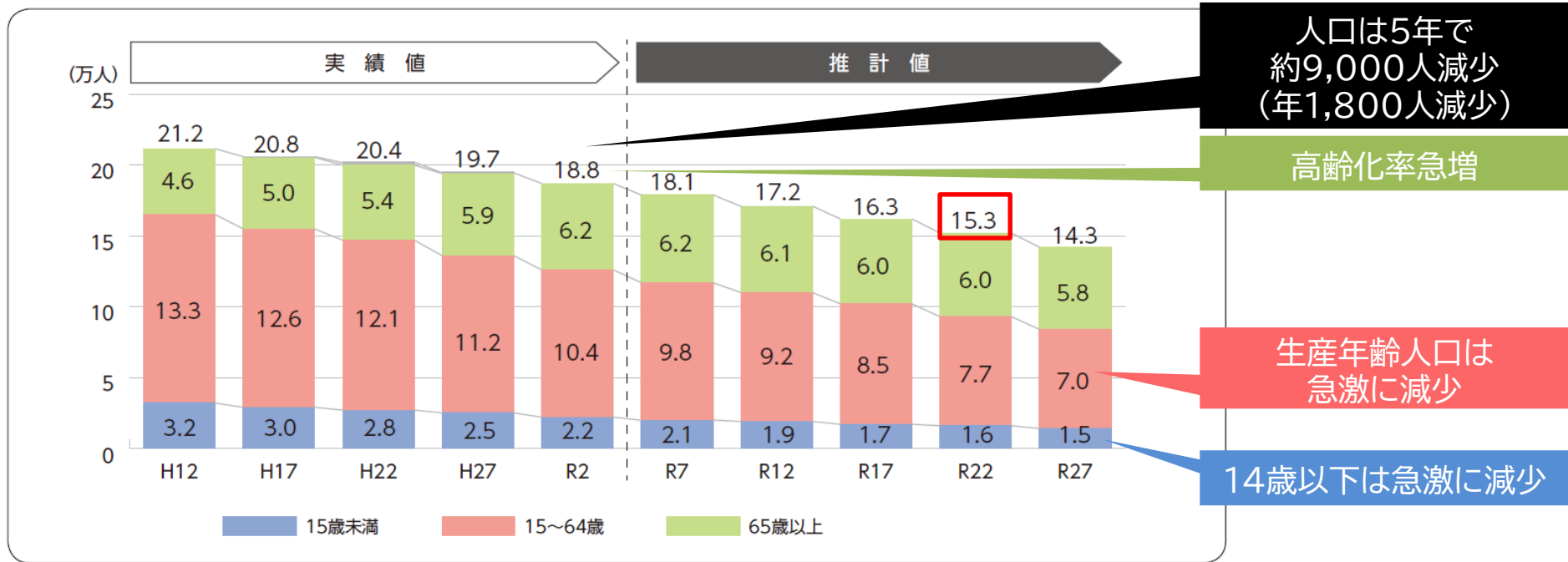
第2章 上越市における通年観光の背景

1 上越市の課題

上越市の人口減少

- 令和22年には約15万人程度の人口となり、将来的に当市の人口は、全ての年齢層において減少していく。
- 人口減少の影響として、空き家の増加やそれに起因する街並みの喪失などが懸念される。

【上越市の将来推計人口】



出所：総務省「国勢調査」及び、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（H30年3月推計）」により作成
備考：平成27年、令和2年の数値は不詳補完値

※上越市の人口は、現在182,911人(令和6年1月1日住民基本台帳ベース)

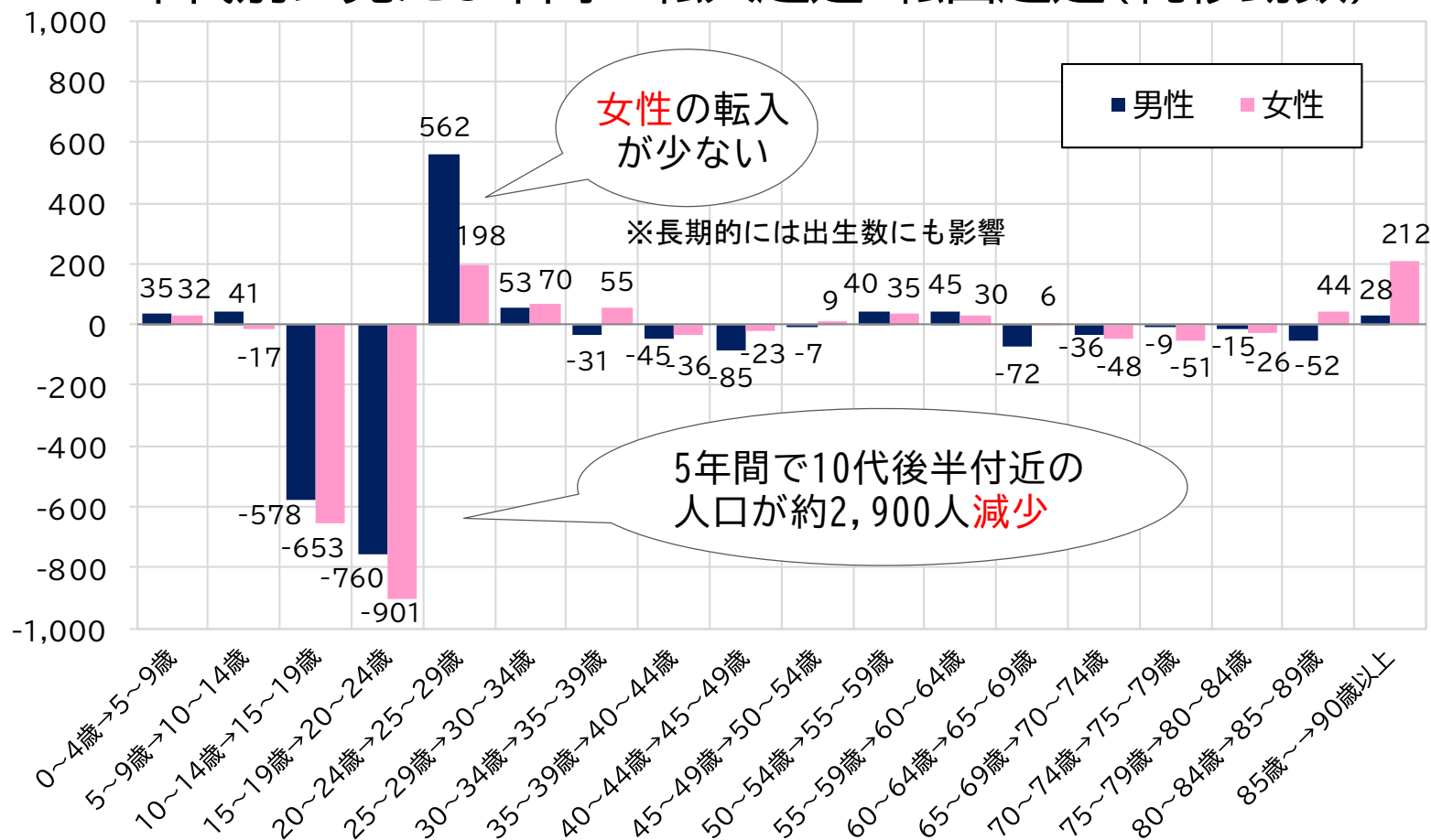
上越市の人口減少＝地域経済規模(地域の活力)の縮小

定住人口消費額: 130万円/人 × 約1,800人/年 = 約23.4億円/年の減少 (5年で約117億円減少)

年代別の社会増減の状況

- 人口減少の要因のうち社会減少では、10代の転出が多く、20代の転入がややあるものの、全体では転出超過であり、特に若年女性の転出超過が顕著となっている。
- 対策の一つとして、若年女性が働きたくなる場の創出や女性が起業しやすい環境の構築が重要である。

(人) 年代別に見た5年間の転入超過・転出超過(純移動数)

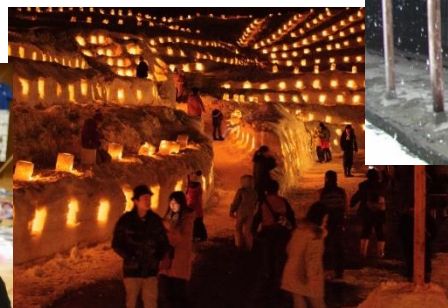


- 人口減少とともに地域資源の担い手も減少し、地域の生業や歴史・文化の伝承が課題となっている。



地域資源を守り・いかす担い手が減少

地域の生業(なりわい)や
歴史・文化の伝承の危機

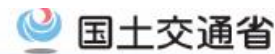


2 国の観光施策

観光立国推進基本計画(第4次)

○ 第4次観光立国推進基本計画において「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」が戦略となっている。

(参考)観光立国推進基本計画(第4次)概要 ~持続可能な形で観光立国の復活に向けて~



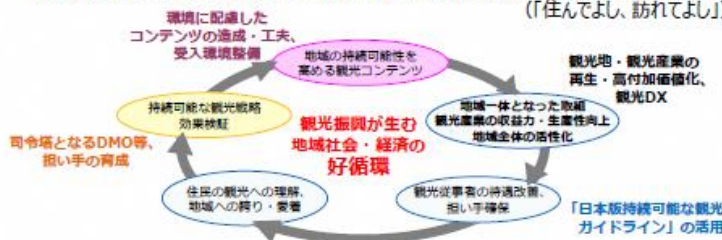
- 観光はコロナ禍を経ても成長戦略の柱、地域活性化の切り札。国際相互理解・国際平和にも重要な役割。
- コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ、我が国の観光を持続可能な形で復活させる。
- 大阪・関西万博も開催される2025年に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせる。

計画期間：
令和5～7年度
(2023～2025年度)

基本的な方針

持続可能な観光地域づくり戦略

- 観光振興が地域社会・経済に好循環を生む仕組みづくりを推進する
- 観光産業の収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善にもつなげる
(「稼げる産業・稼げる地域」)
- 地域住民の理解も得ながら、地域の自然、文化の保全と観光を両立させる
(「住んでよし、訪れてよし」)



インバウンド回復戦略

- 消費額5兆円の早期達成に向けて、施策を総動員する
- 消費額拡大・地方誘客促進を重視する
- アウトバウンド復活との相乗効果を目指す

国内交流拡大戦略

- 国内旅行の実施率向上、滞在長期化を目指す
- 旅行需要の平準化と関係人口の拡大につながる新たな交流需要の開拓を図る

目標

- 早期達成を目指す目標：インバウンド消費5兆円、国内旅行消費20兆円
- 2025年目標（質の向上を強調し、人数に依存しない指標を中心に設定）

目標	数値
地域づくりの体制整備	① 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数【新】 100地域
インバウンド回復	② 訪日外国人旅行消費額単価【新】 20万円/人
	③ 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数【新】 2泊
	④ 訪日外国人旅行者数 2019年水準超え
国内交流拡大	⑤ 日本人の海外旅行者数 アジア最大・3割以上
	⑥ 国際会議の開催件数割合 アジア最大・3割以上
	⑦ 日本人の地方部延べ宿泊者数 3.2億人泊
	⑧ 国内旅行消費額 22兆円



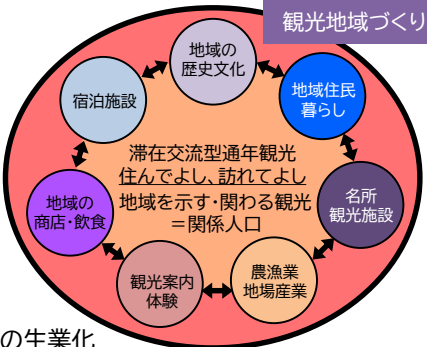
主な施策

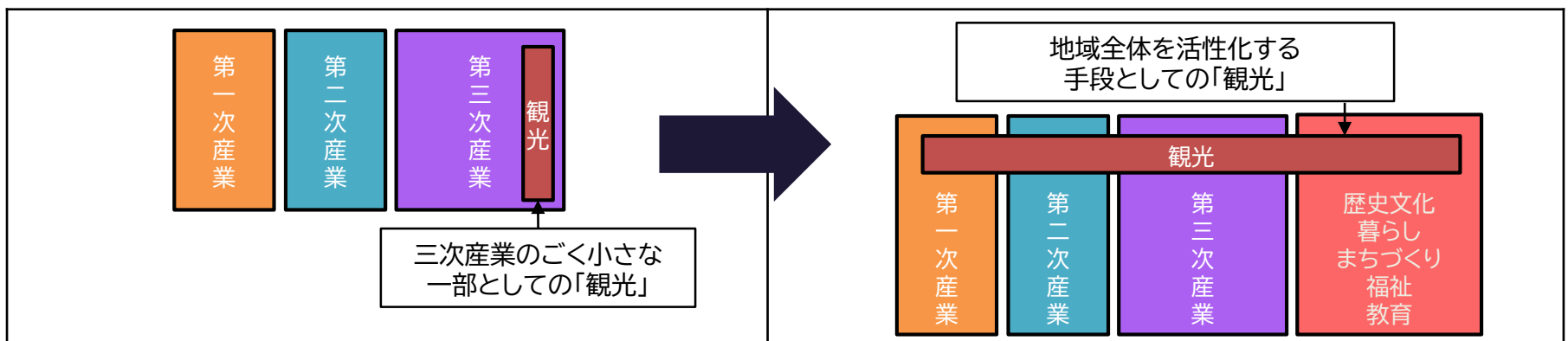
- 観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- 観光DX、観光人材の育成・確保
- 持続可能な観光地域づくりのための体制整備等
- コンテンツ整備、受入環境整備
- 国内需要喚起
- 高付加価値なインバウンドの誘致
- ワークーション、第2のふるさとづくり
- アウトバウンド・国際相互交流の促進
- 国内旅行需要の平準化

目指す2025年の姿

- 活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大がコロナ前より進んだ形で観光が復活している
- 万博の開催地である我が国が世界的潮流を捉えた観光地として脚光を浴び、「持続可能な観光」の先進地としても注目されている

○ 従来型の観光地づくりではなく、観光地域づくりに向けた取組を進めていく。

【従来型の観光】 名所や観光施設等のスポット型な「観光地づくり」	住んでよし、訪れてよしの面的な「観光地域づくり」
<p>団体中心・見学 狭義な観光 国内客中心</p>  <p>観光地づくり</p> <p>名所・観光施設 宿泊施設</p> <p>地域を見る観光</p> <p>観光施設だけ でのおもてなし 観光施設だけが潤う</p>	<p>個人中心・文化・交流 広義な観光 国内客+国外客</p>  <p>観光地域づくり</p>  <p>地域全体で おもてなし (交流型)</p> <p>地域全体が潤う＝地域の生業化</p>
光を見る観光(名所や観光施設を見る)	光を示す観光(豊かな地域の文化や暮らしを感じ交流する)
狭義な観光＝観光地づくり	広義な観光＝観光地域づくり
団体旅行・国内観光客	個人旅行・国内に加えてインバウンド
観光スポットを見る・季節観光	地域全体に関わる・感じる・通年観光
観光業者が主体(施設だけでのおもてなし)	地域・住民が主体(地域全体でおもてなし)
観光事業者だけが潤う	地域全体が潤う＝地域の生業に



3 上越市の観光の現状

旅行消費額は相対的に低い現状にある

- 旅行消費額は非常に少ない。
- 滞在場所・滞在時間が少ないことが、消費場所・消費機会が少ないことにつながっている。

旅行消費額(円)

		上越市			新潟県	全国
国内旅行者	日帰り	県内	3,168		4,823	17,334
		県外	4,345	← 1/2以下 -	10,824	
	宿泊	県内	13,167	← 約1/2 -	25,133	55,054
		県外	17,380	← 約1/2 -	34,713	
外国人旅行者	宿泊		-		-	158,531

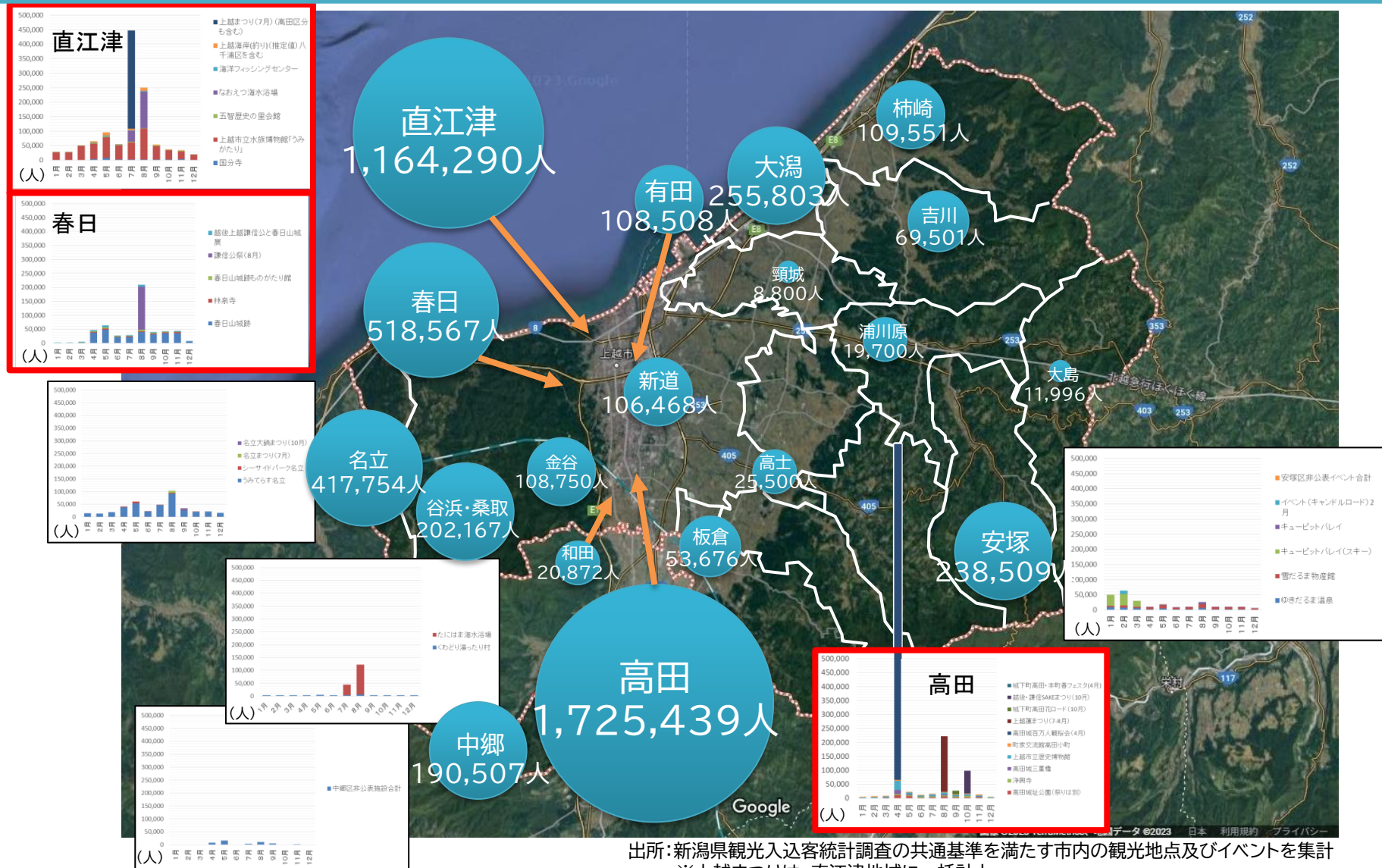
出所:上越市観光データ集
2021(2019年データ)

出所:全国観光入込客統計
2019

出所:旅行・観光消費動向
調査2019、訪日外国人消費
動向調査2019

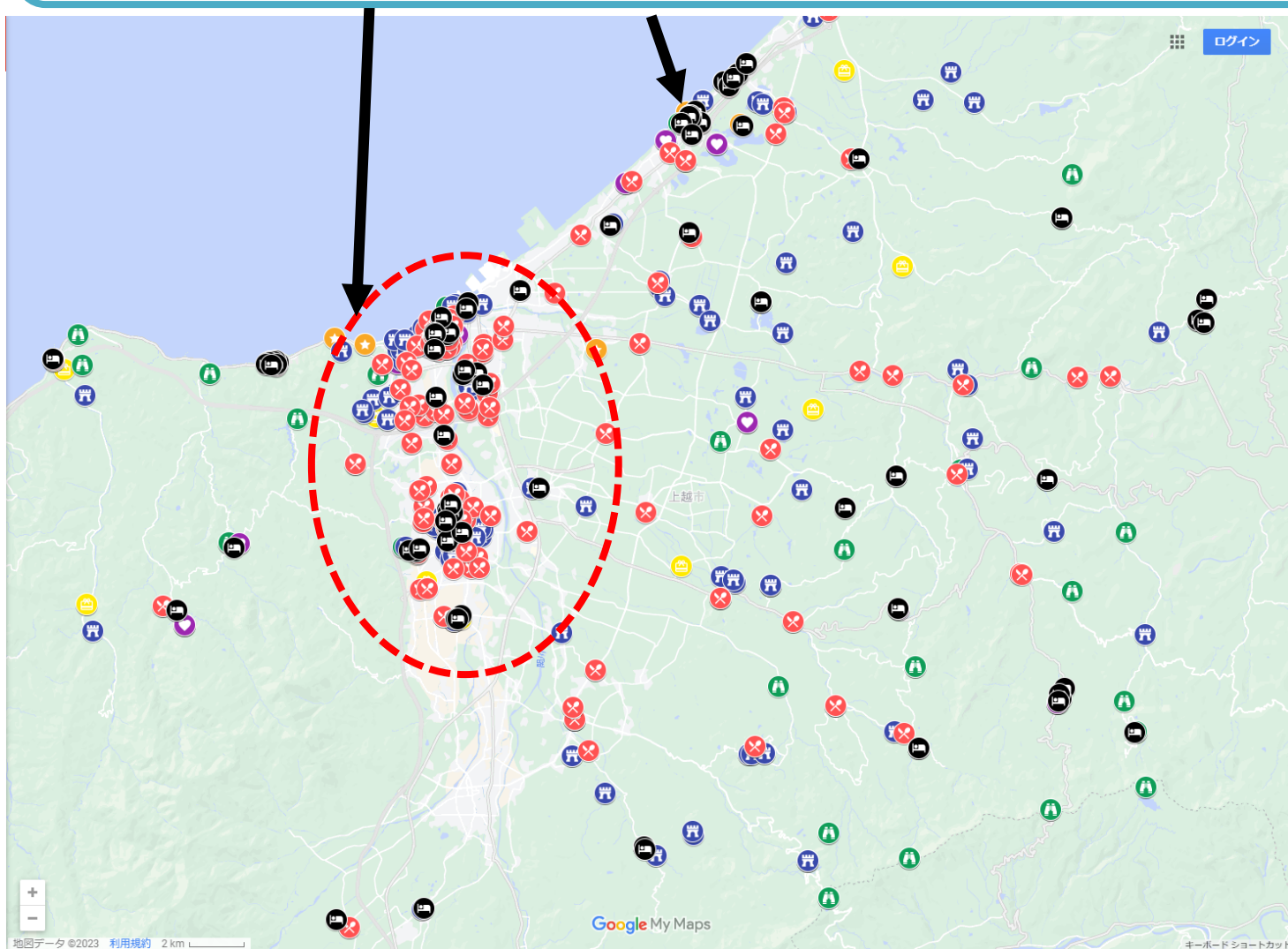
地域別観光入込数(令和元年)

- 市内の観光入込数は、最も多い順から高田、直江津、春日山となっている。
- 一方で、いずれの地域も月別の変動が大きい。



地域資源が集中する3地域

- 高田・直江津地域に観光資源が集中するが、13区にも分布する。
- 宿泊施設も同様の傾向。鵜の浜温泉を始め13区にも点在する（第三セクター施設は冬期休館等が多い）。



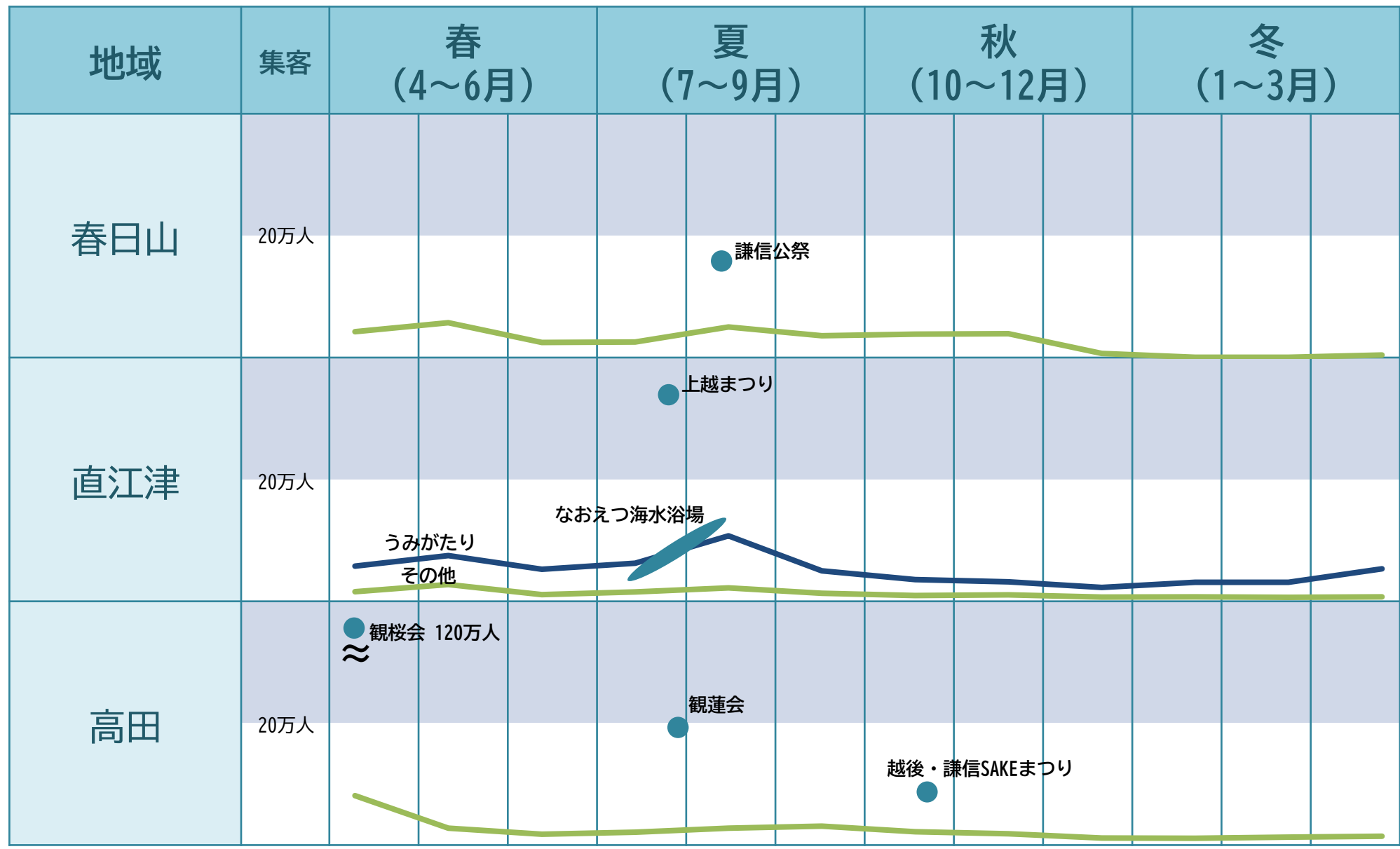
凡例

-  土産・物産
-  レジャー・スポーツ
-  自然景観
-  体験
-  歴史文化
-  【地産地消】居酒屋
-  【地産地消】飲食店
-  宿泊

資源区分	施設数
①土産・物産	50
②レジャー・スポーツ	61
③自然景観	64
④体験	31
⑤歴史文化	108
⑥【地産地消】居酒屋	16
⑦【地産地消】飲食店	233
⑧宿泊	89

出所：⑥⑦地産地消推進の店（農政課）、
⑧市調査、その他は上越観光Navi

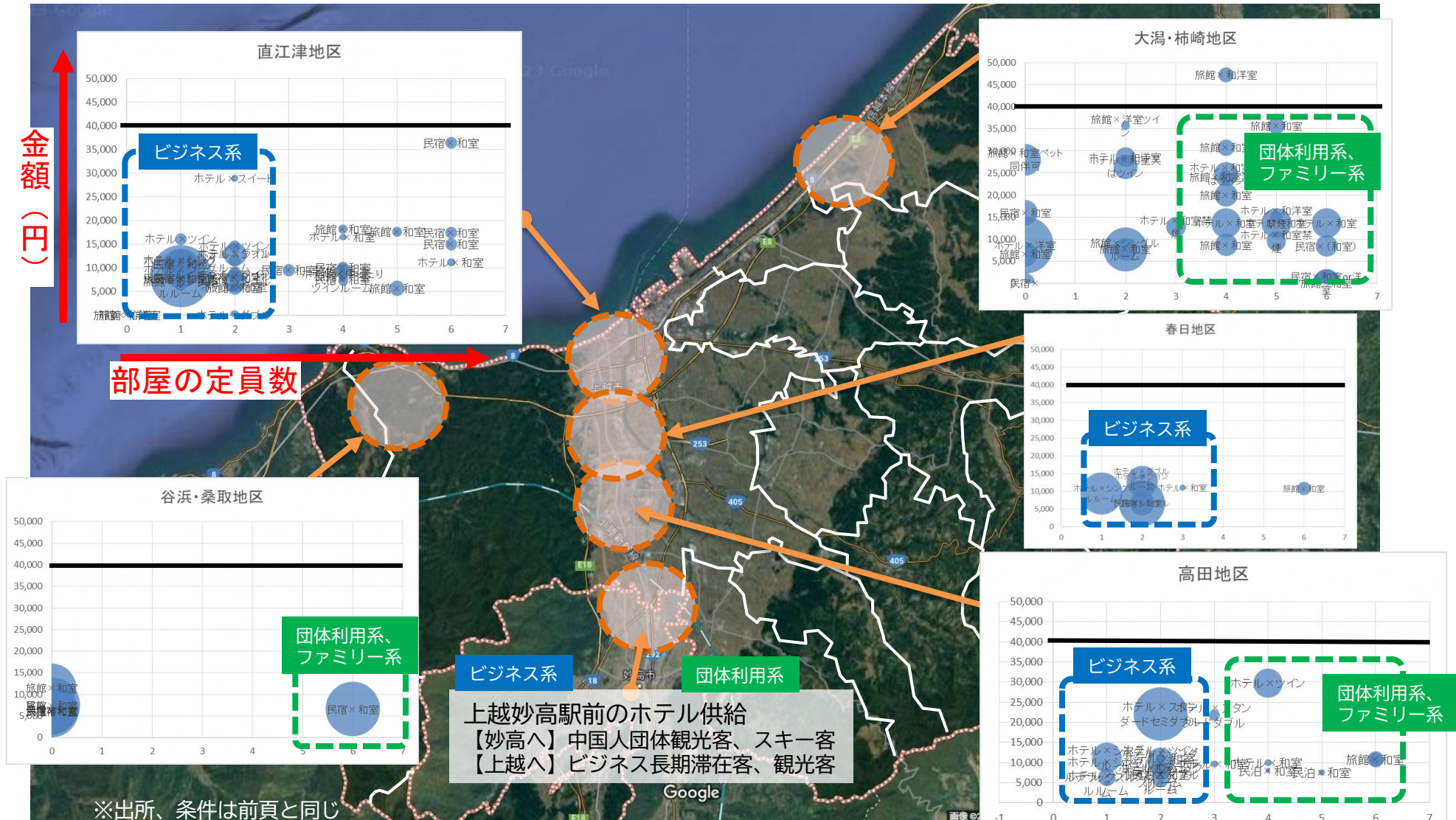
イベントへの依存傾向が課題



出所:新潟県観光入込客統計調査の共通基準を満たす市内の観光地点及びイベントを集計(令和元年の数値を基に作成)
 ※上越まつりは、直江津地域に一括計上

宿泊施設の定員と価格帯の分布(主要エリア)

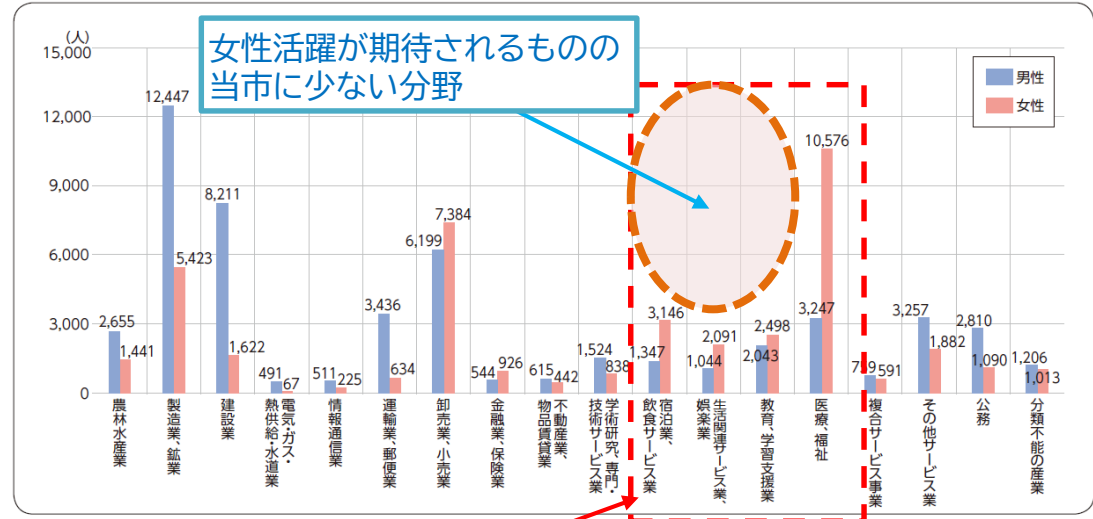
- 大潟・柿崎地区には旅行客向けの施設はあるものの、直江津地区には多人数の家族や団体が宿泊する団体利用系やファミリー系が少ない。
- 高田地区にはビジネス系とファミリー系が立地するが、高価格帯のラグジュアリー系がない。



上越市の性別・産業別就業者数

- 当市の観光関連産業は就業者が少ない分野
- 観光・教育関連産業の成長は、女性が活躍しやすい環境整備につながる可能性がある。

上越市の性別・産業別就業者数(令和2年)

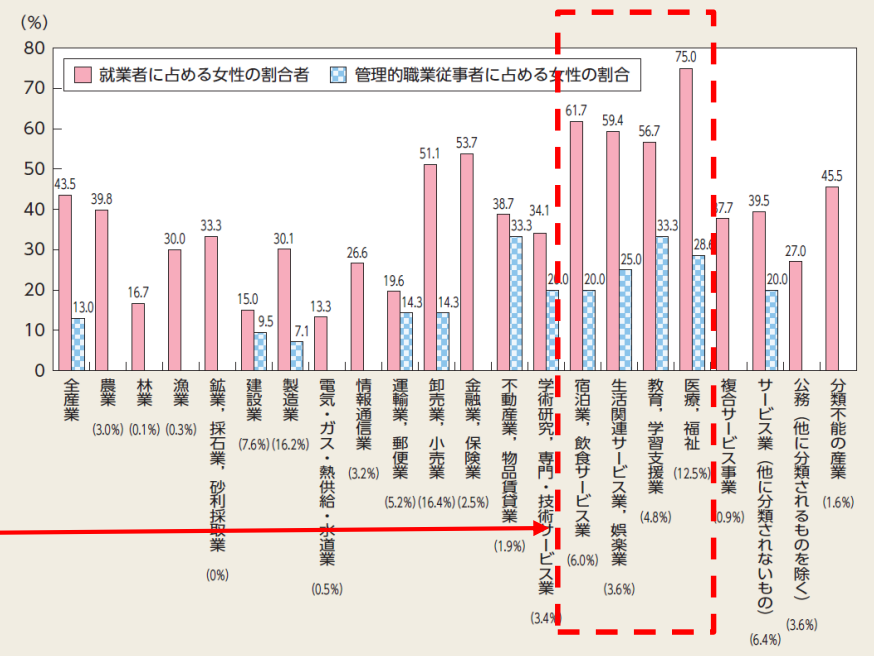


出所：上越市第7次総合計画

就業者、管理的従事者ともに女性の割合が高い職種
(≡女性の活躍が期待される職種)

- ・宿泊業・飲食サービス業
 - ・生活関連サービス業・娯楽業
 - ・教育・学習支援業
 - ・医療・福祉
- 観光関連産業

就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合



(備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」(平成28年)より作成。
 2. 管理的職業従事者とは、就業者のうち、会社役員、企業の課長相当職以上、管理的公務員等を指す。
 3. 産業名の下に記載されている()内の%は、全産業の就業者に占める当該産業の就業者の割合を示す。

出所：平成29年版男女共同参画白書

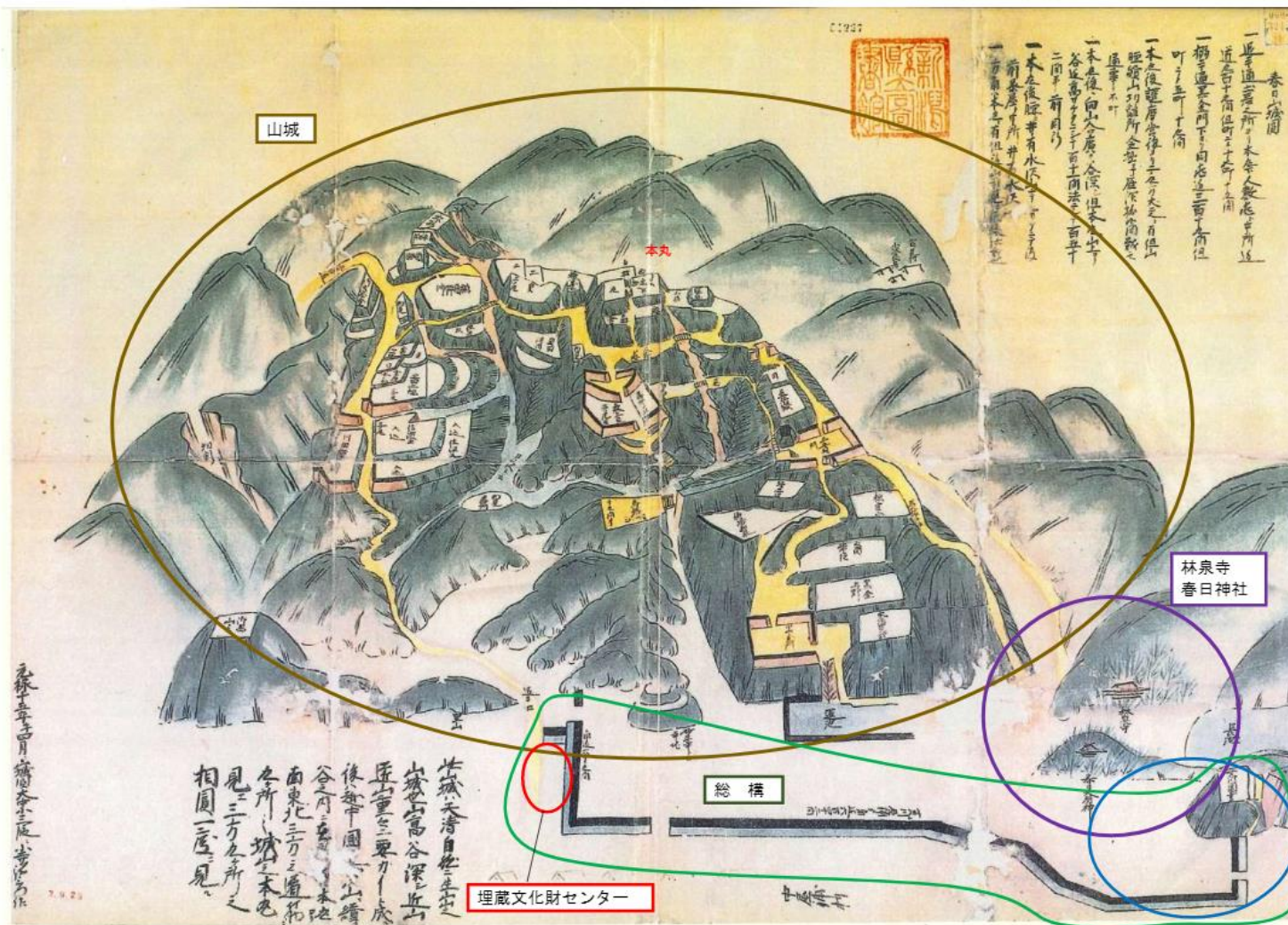
4 春日山地域の現状

○ 主な歴史文化資源



春日山地域：歴史から見る春日山城の構造

○ 古絵図には、山城の建物などは残っていないが、時代は変わっても地域の人たちの手で城跡遺構や周辺の神社仏閣などは変わらずに現在に継承されていることが分かる。

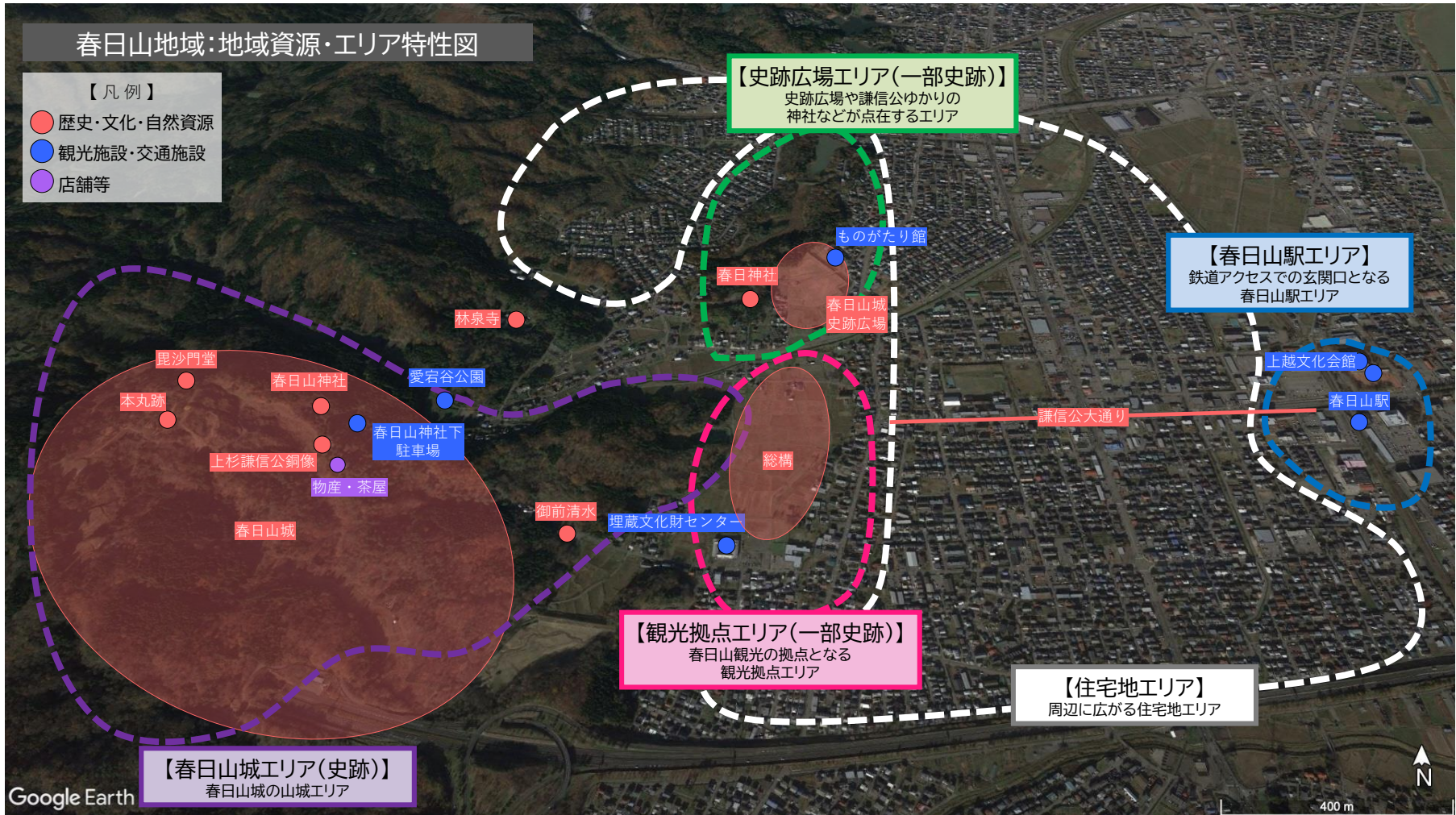


元禄15年(1702)新潟県立図書館所蔵

「春日山城図」(新潟県立図書館所蔵) ※「越後佐渡デジタルライブラリー」からの転載

春日山地域：地域資源・エリア特性

- 春日山城を中心としてエリアごとに様々な特徴を有しており、エリアに沿った活性化の方向性の検討が必要である。
- 特徴のあるエリアごとの強みをいかながら、春日山地域全体としての魅力づくりが必要である。



- 春日山地域のポテンシャルをまとめると下記のとおりである。
- これらの資源は、春日山地域のコンセプト検討の核となる本質的要素であるとする。

● 上杉謙信公の居城の歴史

- ・越後府中の要害として築かれ、謙信公・景勝公・堀氏が整備を進めた、規模が極めて大きい山城
- ・戦国の名将・上杉謙信公の居城として知名度が高い。
- ・標高180mの春日山に築かれ、東西南北に2km程度、削平地が200か所、数十か所の堀切や土塁など、日本を代表する山城



● 豊かな自然と景観の山城

- ・春日山城は歴史的な史跡であるとともに、自然豊かな山であり、規模的にも春日山神社から30分程度で本丸へ登られるなどトレッキングとしても良い環境である。
- ・麓から地域のシンボルの山としても、山頂からの眺望も、どちらも美しい。
- ・謙信公が見た頸城野の風景



● 戦国の名将・上杉謙信公

- ・戦国武将として人気極めて高い上杉謙信公は、武田信玄と5回にも及ぶ川中島の合戦を展開するなどの宿敵であった。
- ・信仰深い顔も持っており、毘沙門天の信仰や高野山金剛峯寺や京都大徳寺などへの参詣なども知られている。
- ・市民にとって地域の誇りとなっている。
- ・春日山は謙信公のふるさとであり墓所



● 歴史と縁ある周辺の神社仏閣

- ・春日山の周辺には、上杉家の氏神の春日神社や謙信公が少年時代に修行した林泉寺、謙信公を祭神とする春日山神社など、謙信公ゆかりの神社仏閣や寺院に関わる地名が点在している。



● 謙信公の義の精神と勝負強さ

- ・領土的野心での戦は一度もなく、救援を請われて戦ったといわれるほど「義」に篤い武将で、敵の信玄方に塩を送ったといわれている。
- ・軍神としても知られ、69戦43勝24分2敗で、勝率は9割7分という勝負強さを持つ武将であった。



● 謙信公を中心とした地域活動

- ・謙信公祭などのイベントや越後上越 上杉おもてなし武将隊、観光ガイド、謙信公を学ぶ市民活動など、謙信公を中心とした地域活動が活発に行われている。



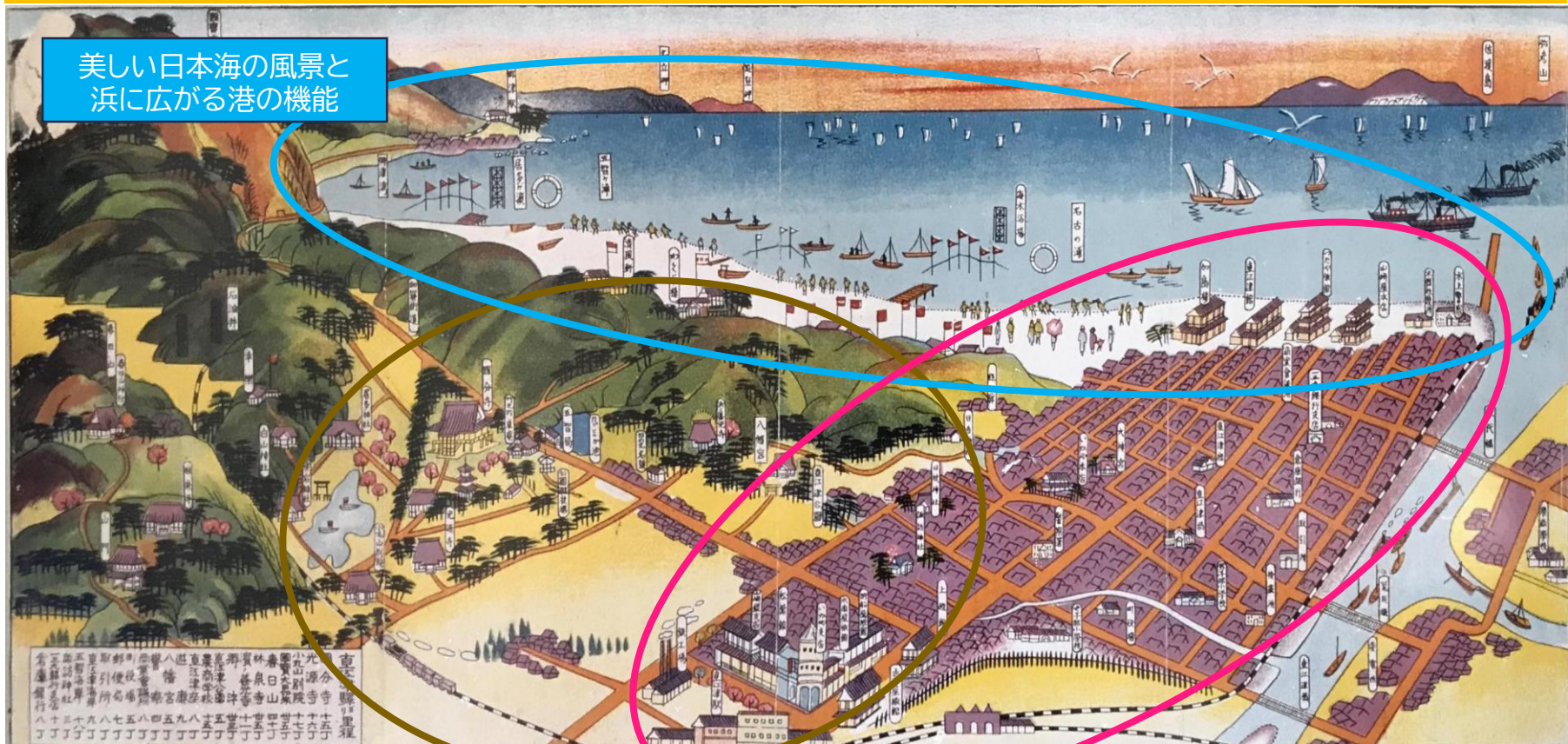
5 直江津地域の現状

○ 主な歴史文化資源



- 大正時代の絵図からも、五智の歴史文化と日本海のみなと町が共存した豊かなまちであったことが分かる。

日本海名勝 直江津五智遊覧案内(大正14年)(上越市立歴史博物館所蔵)
航路と鉄路の結節点として栄えた近代の直江津の様子を描いた絵図

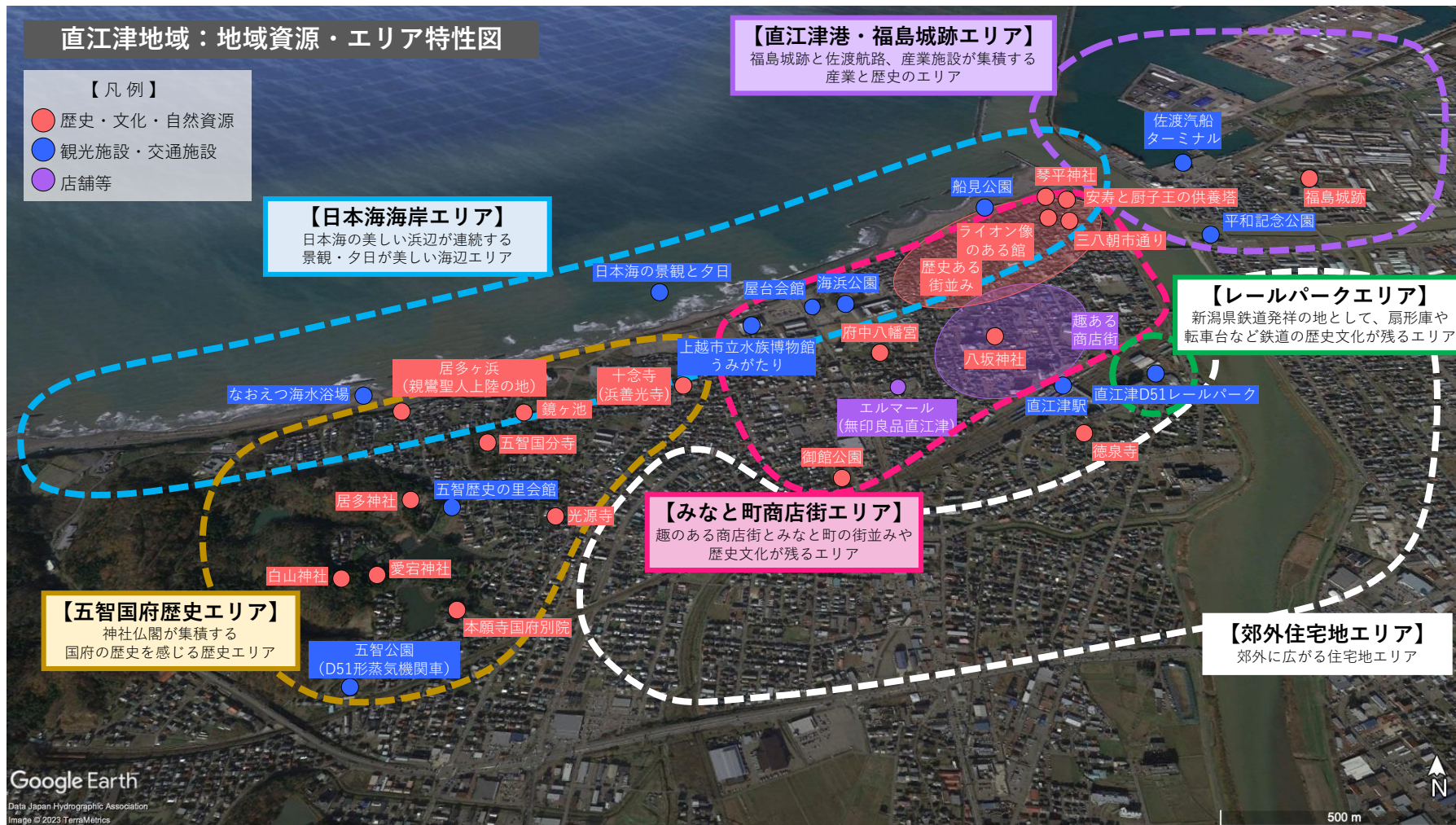


美しい日本海の風景と
浜に広がる港の機能

越後府中の風情薫る
歴史ある神社仏閣群

宿屋や商業物流機能などが
集積する港を支えた市街地

- 歴史あるみなと町を中心としてエリアごとに様々な特徴を有しており、エリアに沿った活性化の方向性の検討が必要である。
- 特徴のあるエリアごとの強みをいかながら、直江津地域全体としての魅力づくりが必要である。



- 直江津地域のポテンシャルをまとめると下記のとおりである。
- これらの資源は、直江津地域のコンセプト検討の核となる本質的要素であるとする。

●日本海の豊かな海のまち

- ・日本海の美しい風景と海岸線
- ・海水浴などのマリナクティビティ
- ・日本海に沈む美しい夕日
- ・活用可能な海岸沿いと海浜公園
- ・海の文化を伝える水族博物館うみがたり
- ・首都圏から一番近い日本海
- ・世界文化遺産登録を目指す佐渡へのアクセス



●新しい直江津の拠点の活用

- ・コロナ禍前には100万人近い入館者を集め、直江津の新たな顔となった海を感じる水族博物館うみがたり
- ・地域連携を掲げ、地域とさまざまな取組を行う最大級規模の無印良品直江津店
- ・鉄道発祥の歴史を今に伝え、鉄道を体験できる直江津D51レールパーク
- ・五智公園のD51形蒸気機関車



●物流・交通の歴史みなと町の息づかい

- ・奈良時代(水門)や室町時代(直江の津)から物流交通の要衝の「みなとのまち」として名を知られていた歴史文化(三津七湊)
- ・今町として、高田藩の外港や北前船の寄港地として繁栄し、その後も鉄道や港などの物流・交通の要衝として発展し、その風情を今に残す歴史文化、街並み、暮らし
- ・東西の人や文化が出会うみなと町で生まれた義経伝説や安寿と厨子王などの物語



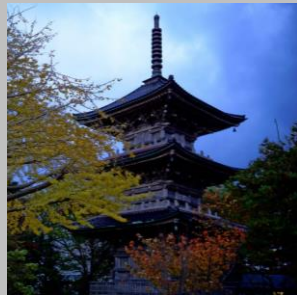
●浜っ子の人情と祇園祭

- ・みなと町に生きる、人情に厚く我慢強いが大らかな、浜っ子の気質
- ・地域の誇りであり、まちが一つになる八坂神社の祇園祭とその文化
- ・祇園祭の御旅所行事と屋台巡行が新潟県無形民俗文化財に指定



●越後府中・福島城の歴史風情

- ・平安時代から越後国府が移り、越後の都「越後府中」として政庁や巨大な神社仏閣が立ち並んだ歴史と風情が今も残る。
- ・親鸞聖人に関連する旧跡やストーリー
- ・7年間の短い運命の福島城の歴史
- ・越後守護・上杉房定による越後府中文化の栄華



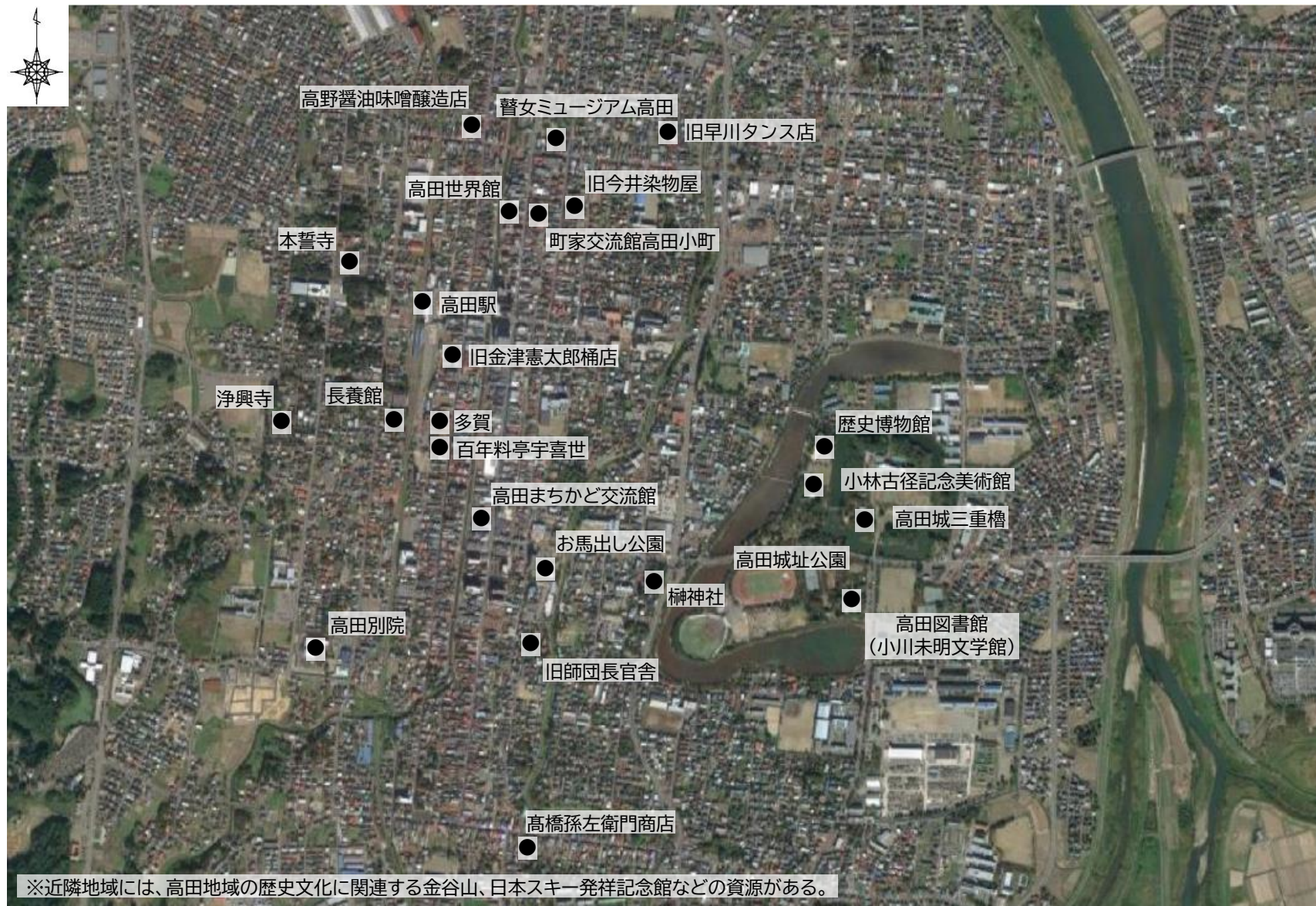
●みなと町の街並みと商い

- ・歴史的なみなと町の名残りを強く感じる、砂丘地に広がる、商店街や土蔵、路地などの特徴的で風情ある街並み
- ・食を始め、個性的な商店が集積する商店街と商人の心意気
- ・三・八市を象徴とする、人と物が行き交う朝市の商い
- ・北前船関連文化財が日本遺産に認定



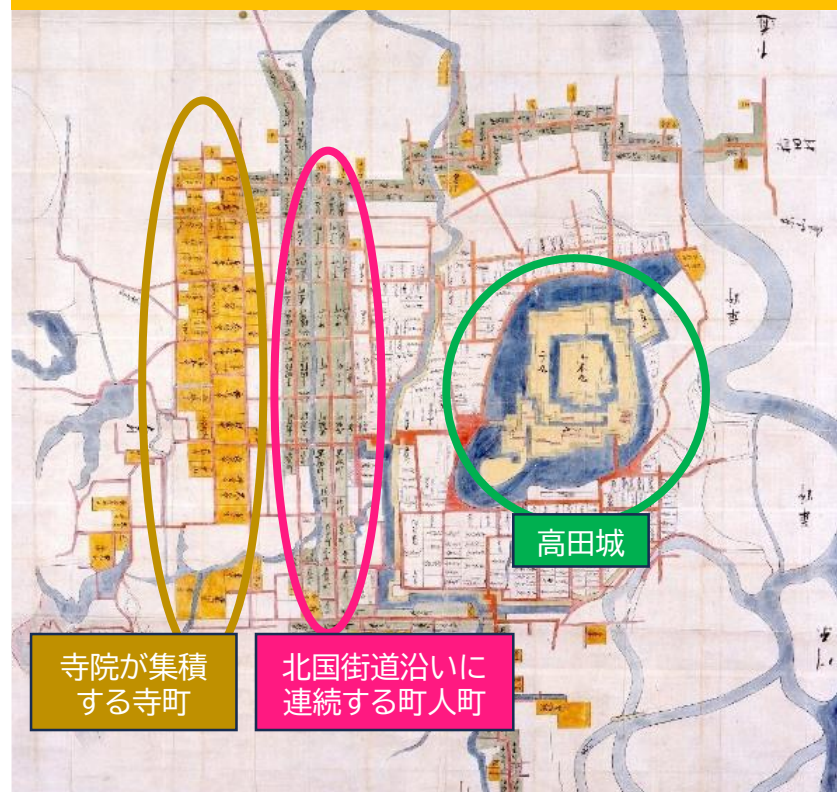
6 高田地域の現状

○ 主な歴史文化資源



- 江戸時代・大正時代の絵図からも、時代は変わっても城下町の構造が基本的には変わらず、現在に継承されていることが分かる。
- 大正時代の絵図を見ると「北日本第一桜の名所」として、高田城址のほか、市街地や寺町にも桜が植栽され、地域全体が桜のまちとなっていることが分かる。

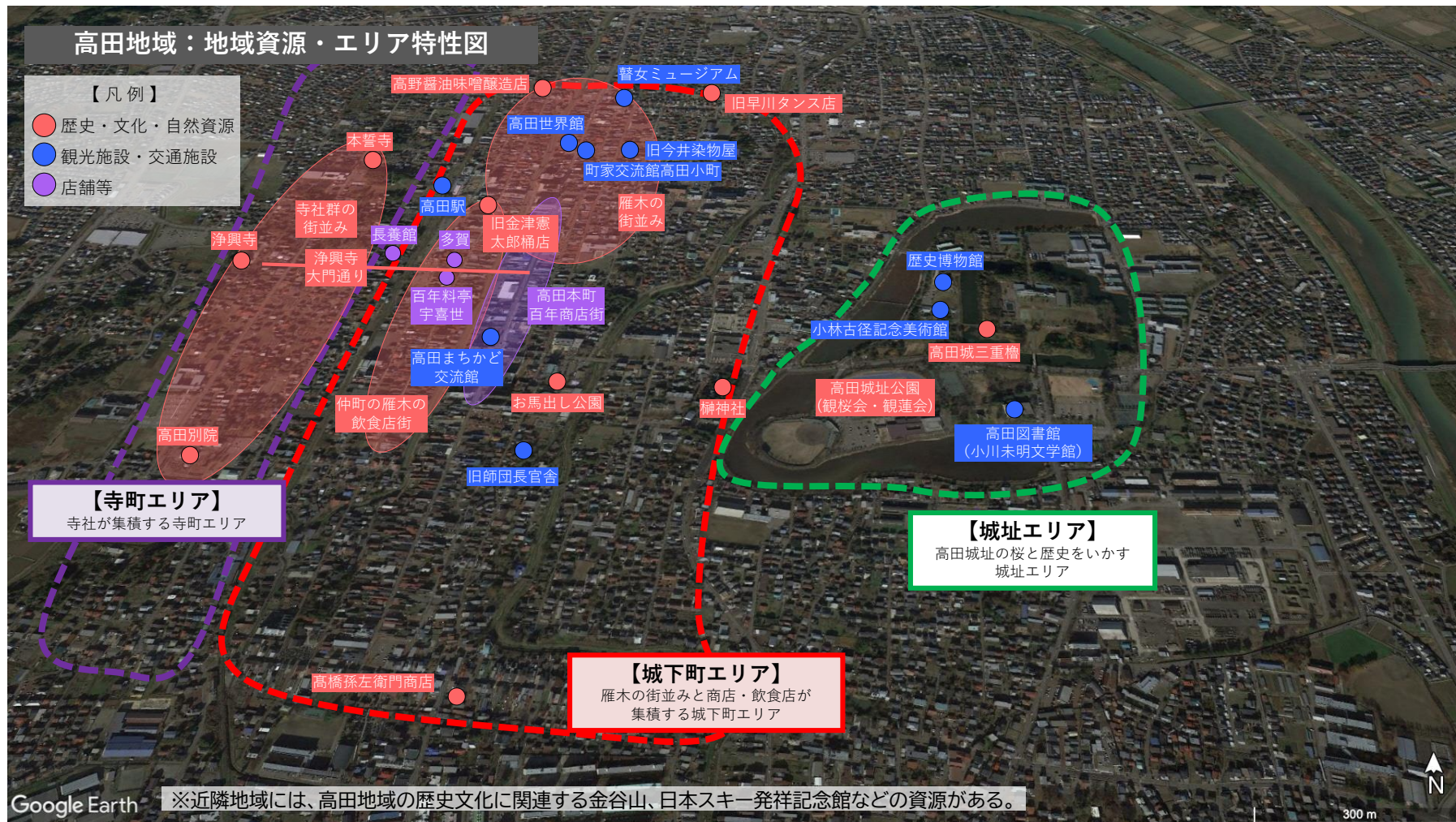
高田城下町絵図(江戸時代中期) (上越市高田図書館所蔵)
江戸時代中期の高田城下町を描いた絵図



高田名勝図絵(大正14年以降) (上越市立歴史博物館所蔵)
大正時代頃の高田の桜の名所を描いた絵図



- 高田城を中心としてエリアごとに様々な特徴を有しており、エリアに沿った活性化の方向性の検討が必要である。
- 特徴のあるエリアごとの強みをいかにしながら、高田地域全体としての魅力づくりが必要である。



- 高田地域のポテンシャルをまとめると下記のとおりである。
- これらの資源は、高田地域のコンセプト検討の核となる本質的要素であるとする。

●400余年の歴史ある城下町

- ・天下普請で築城され、今もその面影を残す400余年の歴史ある城下町
- ・土塁・堀が今も残る高田城址公園
- ・今も残る城下町の町割りや町家等
- ・博物館など城下町の歴史を学べる施設
- ・上越妙高駅や高速道路からの良好なアクセス



●日本三大夜桜の高田城址の桜

- ・日本三大夜桜の高田城址公園の桜と蓮の美しい花のイベント
- ・絵図では「北日本第一の桜の名所」と称され、全域で花が咲く城下町であった。
- ・城址公園は、創建当時の雄大な土塁と堀が残り、歴史を知ることのできる歴史博物館や三重櫓などがある。
- ・日本三大夜城



●全国一の雁木の街並み

- ・町家の1階から庇を張り出してその下を誰でも通れる雁木が街道筋を中心に連続している。
- ・雁木の総合計は約13kmにも及び、全国一の長さを誇っており、他にはない特徴的な街並みと都市歩行空間を形成している。



●寺院密度日本一といわれる寺町

- ・一説には寺院密度日本一といわれる、様々な宗派の60以上の寺院が、ほぼ全て高田城に向かって2本の通りに計画的に集積して並んでいる特徴的な寺町
- ・建物や宝物、庭園、花木など、それぞれの寺院が豊かな特徴を持っており、寺町のまちづくり活動も行われている。



●雁木が育んだ共助の雪国文化

- ・各家が庇部分を提供し、隣家と連続して設ける雁木の街並みは、厳しい雪国における心意気と、つながり・共助の文化の象徴である。
- ・共同での雪下ろしや瞽女の文化なども雪国の共助の文化を色濃く表している。



●商店・飲食街とまちづくり活動

- ・城下町に形成された商店街と仲町周辺の飲食店街
- ・城下町文化を継承する多様なまちづくり
- ・町家の再生活用や新しい事業者誘致など、地域のまちづくり団体や企業などによる歴史的資源を活用したまちづくりの活動や機運が出てきている。



7 主なまちづくりの経緯と今後の主要イベント

【春日山】主なまちづくりの経緯

	昭和	平成	令和
ハード	・上杉謙信公像設置 (S44)	・春日山城史跡広場・ものがたり館オープン (H8.6) ・スギ伐採 (H11~) ・埋蔵文化財センター開館 (H14.10)	
ソフト	・NHK大河ドラマ「天と地と」放送 (S44)	・地域学習(土の一袋運動など) (H11~) ・謙信KIDSスクールプロジェクト (H18~) ・NHK大河ドラマ「天地人」放送 (H21) ・地域活動支援事業 (H22~)	

「史跡春日山城跡保存管理計画」

(第1期：S55年～H21年)

史跡整備の方向

- ・公有地化と保存の万全の策、価値を守る
- ・十分な調査研究
- ・史跡春日山城跡の環境整備

(第2期：H21年～)

- 基本的な取組：遺構整備と活用への具体的な計画
継続的な調査と研究
防災計画
史跡公開への整備見直し

「謙信公・聖地（フィールド・ミュージアム）」構想

(H26年4月～30年9月)

コンセプト

「謙信公の魂に会える！聖地・春日山」

⇒6つの施策と32の事業

発行：上越観光コンベンション協会、上越商工会議所

【直江津】主なまちづくりの経緯

	平成26年度	平成30年度	令和3年度	令和5年度	令和6年度
ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・新水族博物館整備 ・海浜公園整備 ・道路整備 ・観光案内看板整備 ・直江津駅前市有地利用 ・旧直江津銀行活用促進 ・中央保育園改築 	<ul style="list-style-type: none"> ・うみがたり開館 (H30. 6) ・ライオン像のある館 (H31. 4) ・直江津駅前複合施設 (R2. 3) ・直江津ショッピングセンター (R2. 7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・直江津D51レールパーク (R3. 4) 		
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか水族館 ・アート修景整備(壁面作成) ・まちあるきガイドマップの改訂増刷 			<ul style="list-style-type: none"> ・なおえつ うみまちアート 	

○都市再生整備計画
(H26～30年度)

目標：賑わいの再生、交流人口の拡大、居住人口の増加

○中心市街地活性化プログラム

(第1期：H26～28年度)

(第2期：H29～R元年度)

(第3期：R2～6年度)

目標：街のにぎわいの向上

目標：めぐる！楽しむ！直江津

○なおえつ うみまちアート
(R3～5年度)

目標：直江津の魅力を引き出し、賑わいを創出する

【高田】主なまちづくりの経緯

	平成18年度	平成25年度	平成30年	令和3年度	令和6年度…
ハード	<ul style="list-style-type: none"> ・町家交流館高田小町 ・寺町駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史博物館 ・オーレンプラザ ・高田駅前雁木 ・寺町公衆トイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧師団長官舎改修 ・100年映画館周辺交流広場整備 ・高田小町駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧今井染物屋 	
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか散策促進事業 ・雁木整備事業補助金制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・イレブンプラザ ・あすとぴあ高田 ・高田開府400年 	<ul style="list-style-type: none"> ・百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業 ・リノベーションまちづくり事業 ・ビジネスタウン推進事業 ・まちなか居住推進事業 ・100年映画館のあるまち誘客・回遊強化事業 		

○都市再生整備計画(高田雁木通り地区)

(H18~22年度)

目標:城下町高田の歴史資源を活かした“まちなか回遊観光”を契機とした地域活性化

○都市再生整備計画(高田地区(都市再構築戦略事業))

(H25~29年度)

目標:城下町高田の賑わいの再生とまちの再構築、中心拠点区域の都市機能の維持・強化

○地域再生計画(城下町高田の歴史・文化をいかした「街の再生」)

(H25~29年度)

目標:豊かな市民生活の享受や街なかの魅力向上等によるまちなか居住の促進、歴史・文化をいかした回遊促進による交流人口増加

○都市再生整備計画(城下町高田地区(地方再生コンパクトシティ))

(H30~R2年度)

○上越市(高田地区)中心市街地活性化基本計画

(H20~25年度)

目標:街のにぎわいの向上、商店街の魅力の向上、まちなか居住の推進

○中心市街地活性化プログラム

(第1期: H26~28年度) (第2期: H29~R元年度) (第3期: R2~6年度)

目標:街のにぎわいの向上

目標:つかいたいまち・高田

【高田・寺町】主なまちづくりの経緯

住民が策定した計画・実施した主な事業

	平成9年度	平成16年	平成20年度	平成30年度	令和6年度…	
ハード		・駐車場(浄興寺裏手)		・ポケットパークの設置 ・公衆トイレの整備		
ソフト	・寺町まちづくりプラン策定	・浄興寺大門だより第1号 ・浄興寺大門通りまちづくりプラン策定 ・浄興寺大門通り 通り名サインボードの設置 ・あかりの小径イベント ・花の小径 ・浄興寺大根炊き ・浄興寺菊祭り ・高田寺町寺院散策マップの更新		・寺町まちづくりプラン更新 ・子ども寺町探検隊マップ ・高田寺町寺院散策マップの案内看板の整備		

浄興寺大門通りまちづくりプラン(平成17年3月)

将来像

- 祈りの道としての大門通りの確立
 - ・城下町高田を象徴する「祈りの道と寺町」
→大門通りは「西方浄土」へ向かう「祈りの道」
 - ・誰もが住みたくなるまち
→住民にとってやすらぎと誇りの持てる道

事業計画

長期	中期	短期
<ul style="list-style-type: none"> ・統一された景観と色調の町並み創出 ・全区間石畳整備と1区間から3区間までの全幅歩道化 ・電柱移設 	<ul style="list-style-type: none"> ・門前通りらしいごみステーションの設置、街頭の整備 ・ポケットパークの設置 ・仮設黒板塀による修景 ・1区間3区間交差点拡幅 	<ul style="list-style-type: none"> ・通り名サインボードの設置 ・浄興寺大門だより発行 ・あかりの小径、大根炊き菊花展等イベント実施

寺町まちづくりプラン(平成21年2月)

将来像

- 歴史とみどりが息づくやすらぎのまち・寺町
 - ・住みやすさを重視したまちづくり
→だれもがいつまでも住み続けたいまち
→住むことに誇りを持てるまち
 - ・来訪者をあたたかく受け入れるまちづくり
→もてなしの心を持ったまち
→歴史・文化を学び、大切にすまち

事業計画

長期	中期	短期
<ul style="list-style-type: none"> ・大門通り、表寺、裏寺、本町大貫線道路整備 ・境内林等の緑の保全と維持管理 ・雁木空間の保存整備 ・電柱の民地側への移設 	<ul style="list-style-type: none"> ・散策路、休憩施設の整備 ・寺の参道空間の整備、解説板の設置 ・ごみ集積所の改修・景観整備 ・交差点の角切り整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケットパーク・駐車場の新設 ・公衆トイレの新設 ・高田寺町寺院散策マップの更新 ・子ども寺町探検隊マップの作成

今後予定されている周年記念（令和12年度まで）

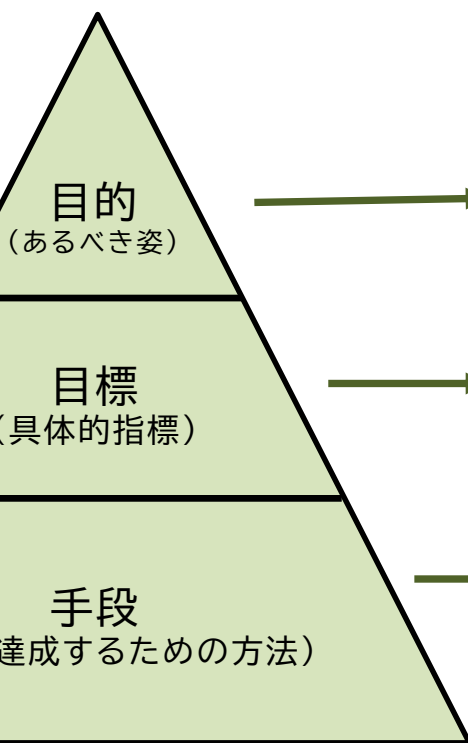
上越市第7次総合計画 計画期間
令和5年度～令和12年度

	R4年度 2022	R5年度 2023	R6年度 2024	R7年度 2025	R8年度 2026	R9年度 2027	R10年度 2028	R11年度 2029	R12年度 2030
主要イベント	全国	■善光寺御開帳 (2022.4.3-6.29)		■「佐渡島の金山」世界遺産登録 (目指す) ■大阪・関西万博 (2025.4.13~10.13)			■善光寺御開帳 (2027又は2028)		
	上越市			■合併20周年 (2005.1.1) ■観桜会第100回 (3月下旬~4月上旬)				■うみがたり開館10年 (2018.6.26)	
	謙信公関係				■謙信公祭第100回 (8月)		■謙信公没後450年 (R10.3.13)		■謙信公生誕500年 (2030.1.21)
	鉄道関係	■鉄道開業150年 (1872.10.14)			■上越妙高駅開業10周年 (2015.3.14) ■トキ鉄開業10周年 (2015.3.14)				
		■北陸新幹線敦賀延伸 (2024.3月)				■信越本線 (直江津-関山駅間) 開業140周年 (1886.8.15) ■ほくほく線開業30周年 (1997.3.22)			

第3章 通年観光の基本方針

1 基本方針

目指す姿 → 歴史・文化の伝承



→ “来訪者が市民の日常に溶け込み楽しむ観光地域”

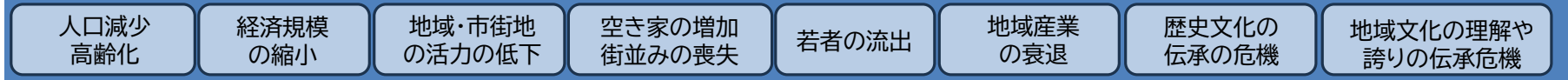
→ 繁忙期(4月、7月、8月)以外の入込客数の底上げ

→ 観光地域づくり
広域からの集客が見込める「春日山」、「直江津」、「高田」の3地域において重点的に「観光地域づくり」に取り組む。

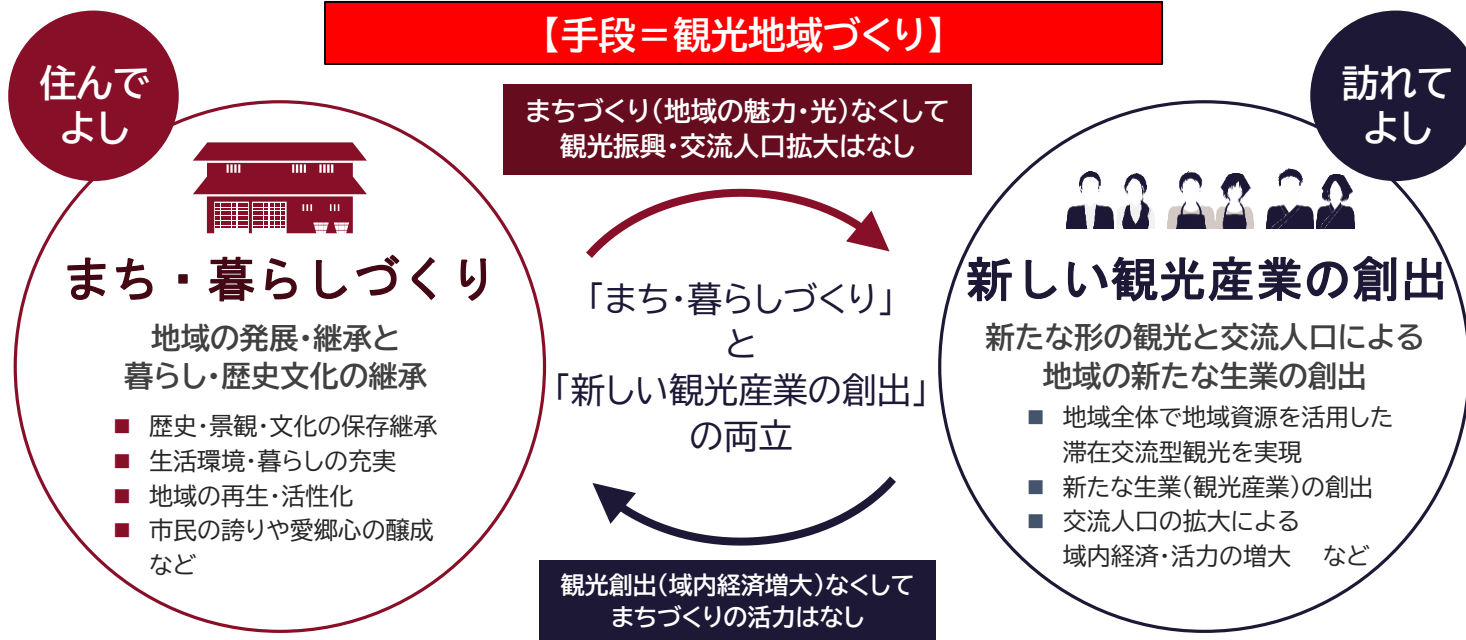
(取組を行う上で意識すること) → 滞在時間の増加 稼ぐ仕組みの構築

目的達成のために

【上越市を取り巻く厳しい地域環境(地域課題)】



地域課題解決のための地域づくりの取組



●「新しい観光産業の創出」とは

地域固有の資源をいかした観光サービスに取り組む新たな事業者(飲食、宿泊、小売りなど)を創出するとともに、既存事業者による観光客をターゲットとした商品の創出、地域に根付いた生業の事業承継等を促進し、滞在交流型観光のサービスを増やすことにより、多様な雇用の創出など幅広い地域産業の活性化につなげる。

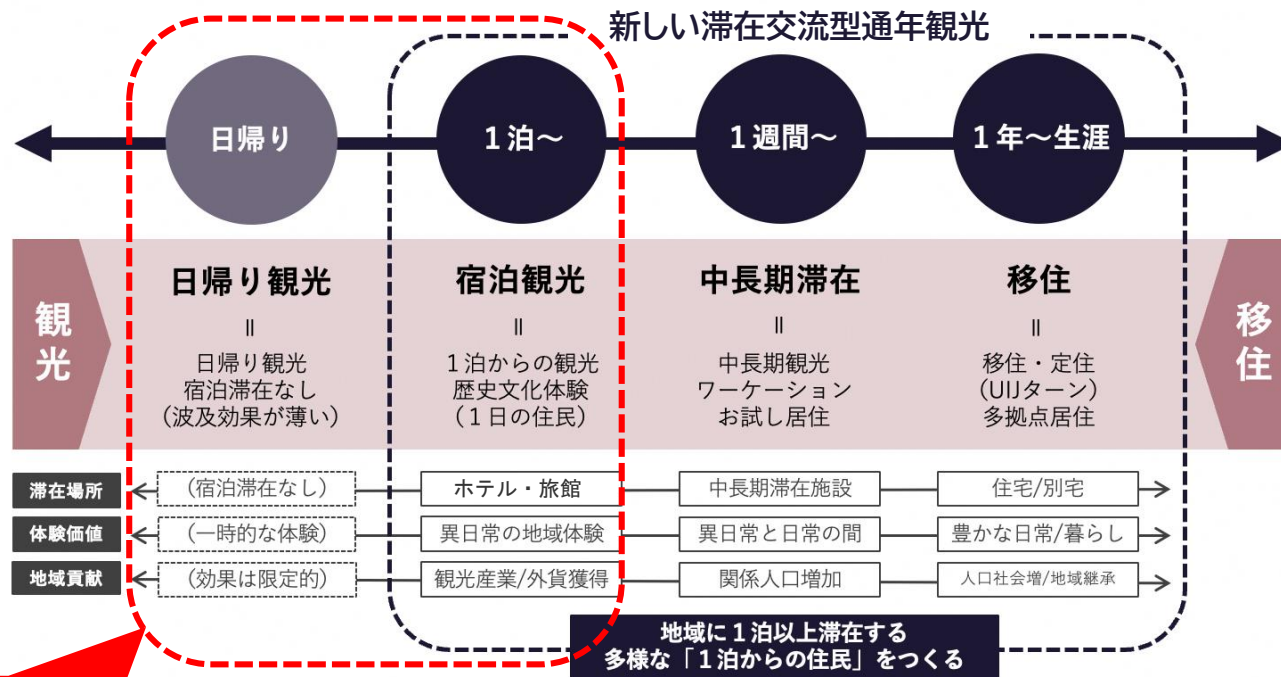
●観光に取り組む意義

地域資源をいかした、地域全体で取り組む滞在交流型通年観光を生業として創出することで、地域課題の解決を目指す。

●実現に向けて必要な取組

- ①他の地域と差別化でき、地域外からの魅力となる地域らしさ(誇るべきDNA)の明確化と戦略づくり
- ②生業となる観光コンテンツ・商品の創出と地域づくり・マネジメント体制の確立

「一泊から一生涯までの住民を」観光から移住まで多様な滞在と関係人口をつくり
地域に生業(産業)を生み出し持続可能な地域を実現する



計画期間内に目指す滞在

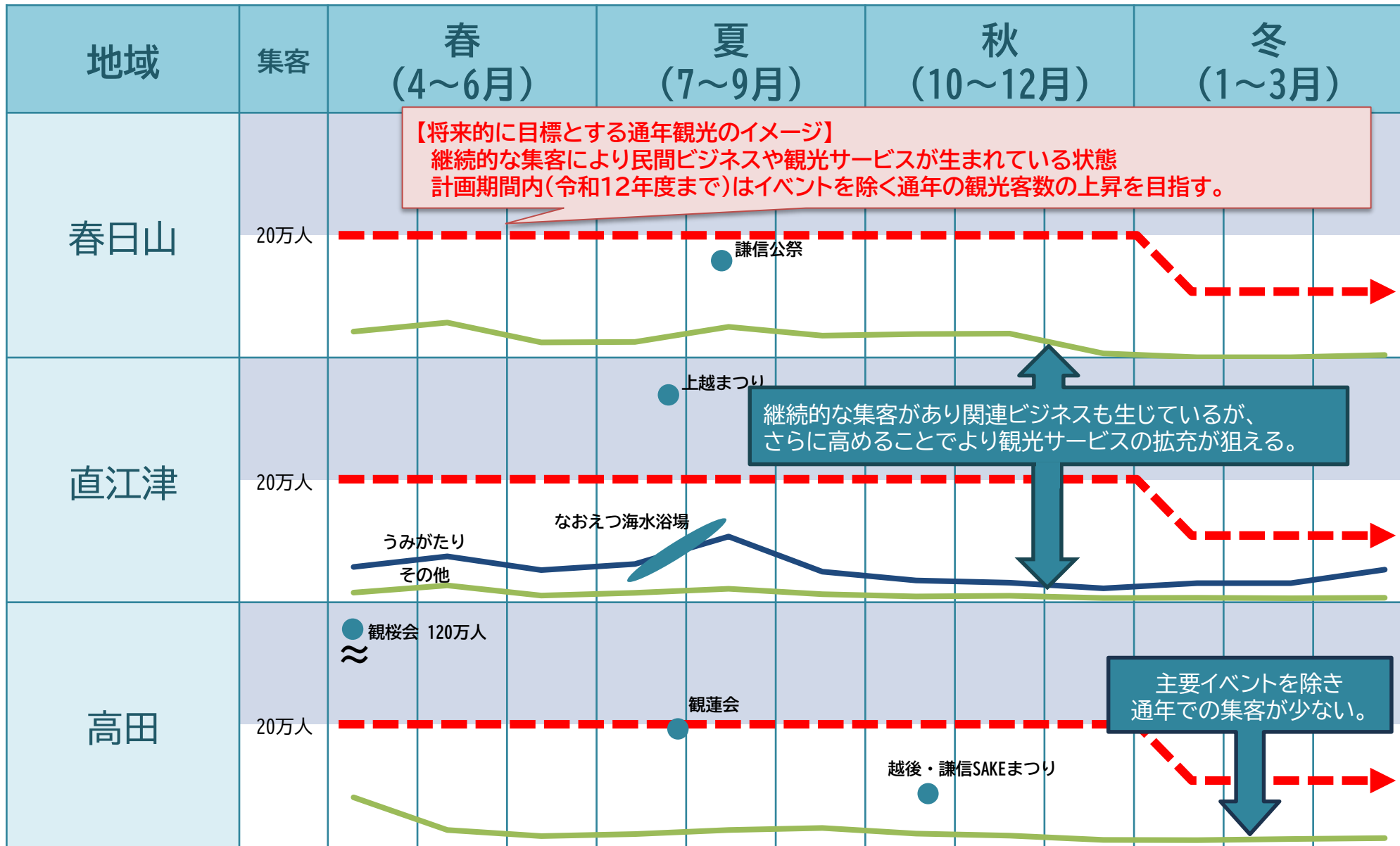
交流人口 → 1日からの住民をまちに迎える

例えば:1日の住民(1泊の観光客)が365人空き家に滞在したら空き家に毎日明かりが灯る。

1日からの住民がいることで、スーパーや魅力的な店舗が復活する。

1日からの住民がいることで、商売が成り立つ、仕事が増える、交通が維持できる。など…

ビジネスが生まれやすいコンスタントな集客を目指す



出所:新潟県観光入込客統計調査の共通基準を満たす市内の観光地点及びイベントを集計(令和元年)
 ※上越まつりは、直江津地域に一括計上

地域全体への効果と広域連携の考え方

- 飲食や宿泊などの民間サービスや観光資源が集中し、広域からの集客が見込める3地域から取り組む。
- 次の4つを組み合わせることで効果的に推進するとともに、その効果が地域全体に及ぶよう取り組む。



① 上越市の
歴史文化の
「価値化」

市民や市外の人々がその価値を認め、足を運んでいただき、経済効果を得ることで、将来にわたり「歴史文化」を守り育てていく。

「上越市+広域」で、それぞれの魅力や特徴をいかし、相互に補完し合うことで、地域全体の魅力向上に取り組む。ニーズに対するコンテンツ不足を「上越市+広域」でカバーし、通年観光化を目指す。「歴史文化」を守り育てる原資としつつ、市民が「歴史文化」の価値を認識し、受け継がれる状態に近づく。



持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)を目指す

④ 上越市
+広域で
集客・発信

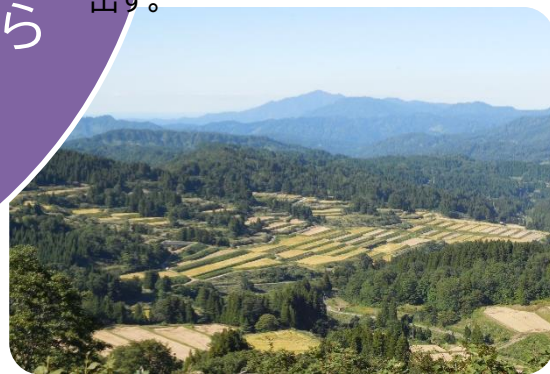
② 3地域の
集中的な観光
地域づくり



「歴史文化」をいかした観光地域づくりと観光消費額アップに3地域(春日山・直江津・高田)で集中的に取り組む。魅力を底上げし、「滞在時間、立寄り場所、宿泊」を強化する。

13区等の観光資源の魅力向上に資する施策を継続し、「3+他地域」で商品化、発信、販売することにより、13区等への波及効果を生み出す。

③ 3地域から
13区等への
波及



○ 上越市は、越後の都の変遷の歴史から、春日山、直江津、高田の3つの特徴的なまちが隣接しており、それぞれのまちに多様な景観とともに人々の暮らしや心意気がある。新幹線や高速道路などの交通アクセスも良好である。

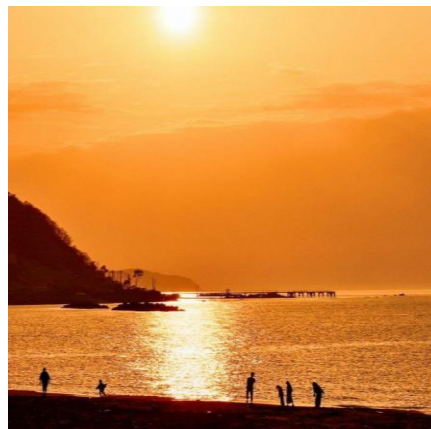
① 越後の都の歴史文化豊かな3つの特徴的なまち

- ・上杉謙信公の居城・春日山城跡の「春日山」、国府や福島城が置かれ交通や物流の要衝として栄えたうみまち「直江津」、雁木の街並みと桜の高田城址が特徴の城下町「高田」と、越後の都の変遷の長い歴史を表す特徴的な3つの歴史的地域が同じ自治体内で隣接して立地し、それぞれ固有の歴史文化を残していることは、他地域にはない特徴である。
- ・3つの特徴的なまちは、越後の都としての変遷や時を経て醸成してきた歴史文化をそれぞれに感じることができ「新しい観光産業」においても魅力的な要因である。



② 3つのまちに息づく人々の暮らしと心意気

- ・3つのまちには、山城・うみまち・城下町の歴史的背景に基づいた人々の暮らしが息づいており、その心意気や精神性(義・人情・共助)もそれぞれに醸成されている。
- ・それらは「新しい観光産業」においても魅力的な要因である。



③ 個性豊かで多様な景観と交通アクセス

- ・地域内は日本有数の豪雪地帯であるとともに、周辺エリアも含め海から山まで多様な景観を有している。
- ・北陸新幹線や高速道路など、関東・関西どちらからもアクセスできる良好なインフラが整っている。

観光地域づくりのコンセプト

特徴・強み	課題	地域・市場環境
<ul style="list-style-type: none"> ● 越後の都の3つの特徴的なまち ・春日山、直江津、高田と、越後の都の変遷を表す特徴的な3つの歴史的エリアが隣接して立地し、それぞれの文化を残している点は特徴的である。 ・3つの特徴的なまちは、越後の都としての変遷や時を経て醸成してきた文化をそれぞれに感じることができ「新しい観光産業」においても魅力的要因である。 ● 人々の暮らしと心意気 ・3つのまちには、山城・うみまち・城下町の歴史的背景に基づいた人々の暮らしが息づいており、その心意気や精神性(義・人情・共助)もそれぞれに醸成されている。 ・それらは「新しい観光産業」においても魅力的な要因である。 ● 多様な景観と交通アクセス ・日本有数の豪雪地帯と多様な景観 ・関東・関西からの恵まれた交通アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史ある風景、建物、文化の消失 ・地域衰退や時代の流れにより、地域の特徴的で貴重な風景、建物、歴史文化などが消失しつつある。 ● 繁華街としての機能の衰退 ・地方都市や中心市街地の衰退により、繁華街としての魅力や活力が失われている。 ● 通年の滞在交流型観光、交流人口の不足 ・観光の目的となる特徴的なテーマやコンテンツの不足 ・イベント、季節型観光中心の偏った観光となっており、通年の滞在交流型観光と、それを実現する仕組みが不足している。 ・人口減少や高齢化の中における多様な交流人口の確保 ・観光地域づくりの推進体制と、マネジメント体制の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 疲弊する地方都市 ・人口減少、高齢化が進んでおり、それに伴い、空き家が増加している。 ・地方都市や中心市街地が衰退しており、商業や工業等の既存産業以外の新しい生業づくりが必要 ● 外国人観光市場とコロナ収束後 ・国内市場はコロナ禍によって国内旅行へ回帰 ・コロナ禍前は外国人観光客数は伸び率が急増し滞在日数、消費額も大きく、歴史体験が人気 ・コロナ収束後、スタイルは変わるが、観光は歴史ある地方部の重要な成長産業 ● 観光の概念の変革 ・観光地を巡る観光から、豊かな地域の文化や暮らしを感じる「住んでよし、訪れてよし」の滞在交流型観光が魅力となっている。

<全体:観光地域づくりコンセプト>

越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気

— 春日山・直江津・高田の多様な3つの暮らしと心意気を誇りを持って示す滞在交流型観光地域づくり —

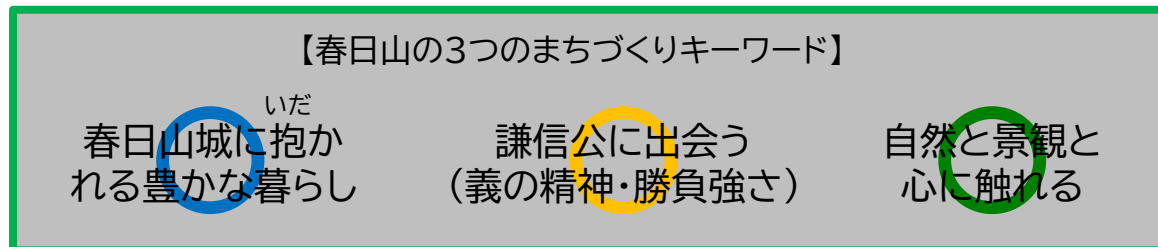
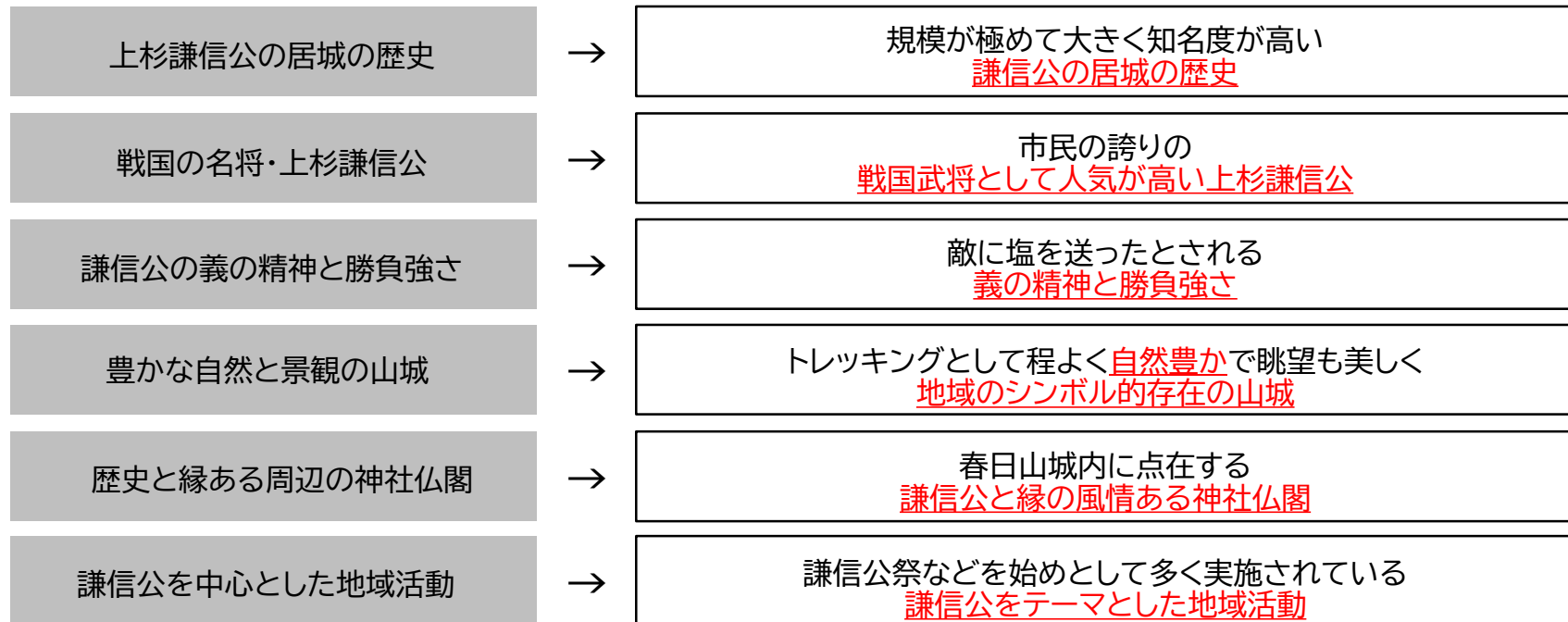
山城・うみまち・城下町、越後の都の変遷が生んだ3つのまちが隣接して歴史文化をつないでいる上越市
その特徴的で多様な歴史文化が、現代にも脈々と息づいています。

3つのまちの暮らしや歴史文化と心意気を感じて巡る「滞在交流型観光地域づくり」による新たな生業をつくる。

越後の都の3つの物語を紡ぎ、誇りある上越を次世代につなぎます。

2 春日山地域の方向性

- 春日山地域のポテンシャルから導き出されるまちづくりキーワードを3つ設定した。
- この3つのキーワードを春日山のまちづくりの本質(地域のDNA)として、今後のコンセプトや計画を検討する。



○コンセプトやコンセプト展開(観光地域づくりの考え方)に考慮する地域の状況

まちづくりキーワード(地域のDNA)	地域ポテンシャル	地域課題
<p>春日山城に抱かれる 豊かな暮らし</p> <p>謙信公に出会う (義の精神・勝負強さ)</p> <p>自然と景観と 心に触れる</p>	<ul style="list-style-type: none">●上杉謙信公の居城の歴史●戦国の名将・上杉謙信公●謙信公の義の精神と勝負強さ●豊かな自然と景観の山城●歴史と縁ある周辺の神社仏閣●謙信公を中心とした地域活動	<ul style="list-style-type: none">●全域での課題<ul style="list-style-type: none">・地域文化の理解や誇りの喪失・人口減少と高齢化・若者の流出・地域経済規模の縮小(地域の活力の衰退・都市機能の低下)・地域の生業・仕事の不足●春日山での課題<ul style="list-style-type: none">・春日山城の保全と活用・交通アクセス、駐車場などの観光動線の改善・歴史を伝えるガイダンス施設やガイドプログラムの充実・現状の観光施設の魅力化・まちづくり推進体制の強化

コンセプト検討の方向性

- ① 「新しい観光産業」を春日山の次世代の活力をつくる「新たな地域産業(生業)」として捉えて育てる。
- ② 地域のDNAである「まちづくりキーワード」を基本とした戦略・コンセプトとする。
- ③ 豊かな春日山の実現に向けて、まちづくりキーワードを尊重しながらまちづくりを進め未来につなぐ。
- ④ まちづくりと共に新たな観光産業づくり施策を実施し、滞在交流型観光地域づくりの礎をつくる。

<春日山地域：観光地域づくりコンセプト>

義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」

- 春日山の豊かな自然や景観に抱かれて義の心や強さに触れる「謙信公の春日山城」-

||

戦国の名将・上杉謙信公が居城としたことで有名な春日山城
謙信公も春日山城も、上越の人々にとってシンボリックな存在です。

春日山の豊かな自然や景観に抱かれて
謙信公が生きていた時に思いを馳せ、義の心や強さに出会う。
いつの時代も生きる上で大切なものを学ぶ「謙信公の春日山城」を目指します。

<春日山地域：観光地域づくりコンセプト>

義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」

- 春日山の豊かな自然や景観に抱かれて義の心や強さに触れる「謙信公の春日山城」-

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり:住んでよし)

春日山城の景観や歴史文化、謙信公の教えを誇りに、
その心や強さに出会う
春日山に抱かれた「謙信公の春日山城」の暮らし

- ・誇りある春日山城の歴史文化を次世代に継承する
- ・春日山の豊かな自然や景観に抱かれて、謙信公の義の精神や強さに触れながら生きる、豊かな暮らしを目指す

地域の観光と生業の姿
(新しい観光産業の創出:訪れてよし)

春日山が目指す「謙信公の春日山城」の
歴史文化、暮らし、精神を感じて滞在・消費する
高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「謙信公の春日山」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「謙信公の聖地」を体験できる春日山城の整備を目指す
- ・実施体制の確立

観光地域づくり実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「謙信公の春日山城」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
(個別施策の実施段階における基本計画や設計業務等)
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築
(地域を一体的にマネジメントできる組織の立ち上げ)



春日山の情報や謙信公の歴史が学べる
ガイダンスや飲食・物販等の拠点施設



植林された杉の伐採



総構の復元



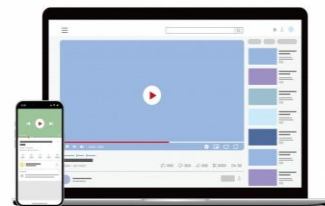
春日山城の遺構を活用した
景観づくり



戦国武将気分を体験できる
プログラム



移動を楽しむ
域内交通



観光情報を気軽に得られる
観光案内サイト



域内を自由に走り回れる
レンタサイクル



春日山を美しく望む
街路の整備



歴史ある春日山で楽しむ
アウトドアピクニック



雪の春日山を楽しむ
体験プログラム



春日山の歴史や文化を学ぶ
地域ガイド

- 山全体が手入れされた整然さを持ち、「城」の風格を創出していく。

七尾城跡(石川県七尾市)



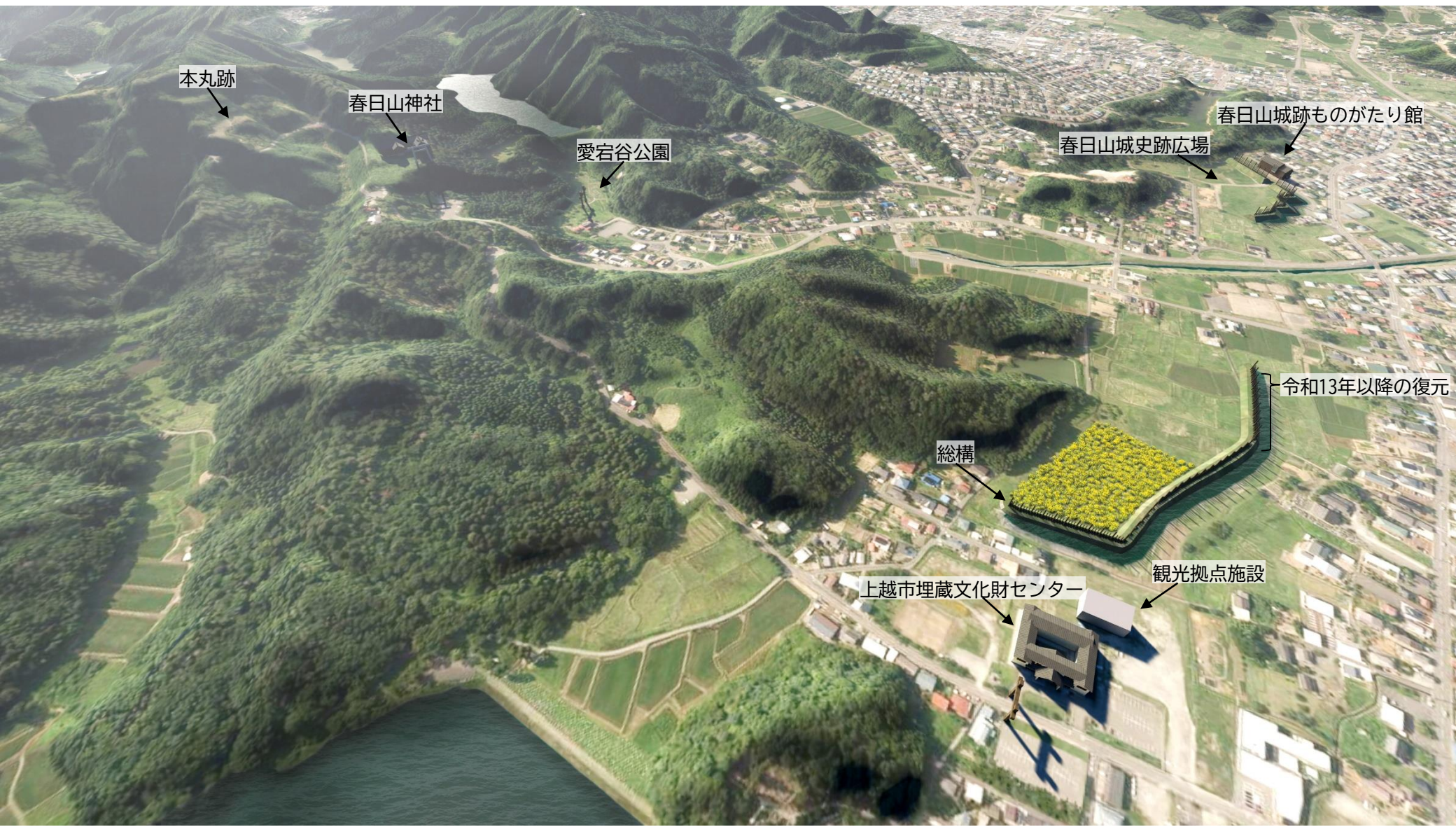
※春日山城は石垣無し



山中城跡公園(静岡県三島市)



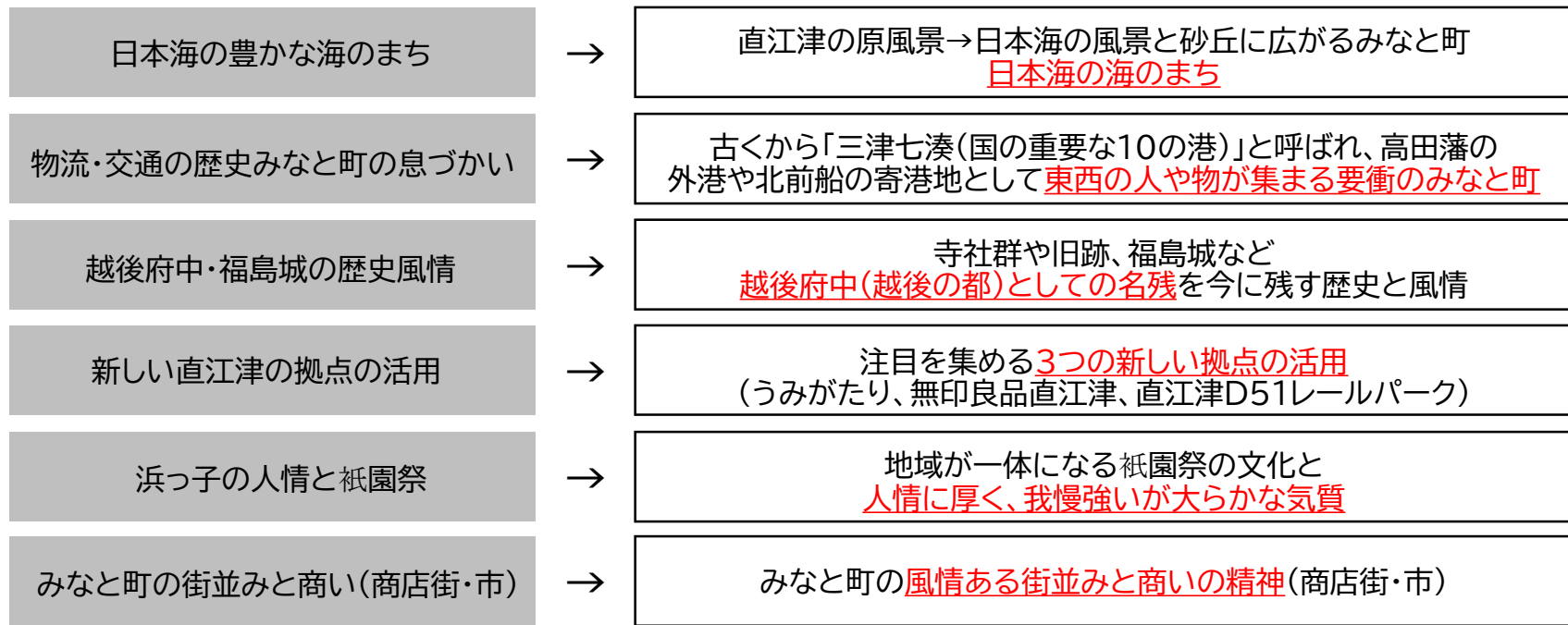
春日山地域(春日山城エリア・観光拠点エリア等)の将来イメージ



「国土地理院地図」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/#16/37.146053/138.216290/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)を基に作成

3 直江津地域の方向性

- 直江津地域のポテンシャルから導き出されるまちづくりキーワードを3つ設定した。
- この3つのキーワードを直江津のまちづくりの本質(地域のDNA)として、今後のコンセプトや計画を検討する。



【直江津の3つのまちづくりキーワード】

日本海うみまちの
新しい暮らし

人情と祭り
と商いの精神

府中とみなと町の
歴史と文化

○コンセプトやコンセプト展開(観光地域づくりの考え方)に考慮する地域の状況

まちづくりキーワード(地域のDNA)

日本海うみまちの
新しい暮らし

人情と祭りと
商いの精神

府中とみなと町の
歴史と文化

地域ポテンシャル

- 日本海の豊かな海のまち
- 物流交通の歴史・みなと町の息づかい
- 越後府中・福島城の歴史風情
- 新しい直江津の拠点の活用
- 浜っ子の人情と祇園祭
- みなと町の街並みと商い(商店街・市)

地域課題

- 全域での課題
 - ・地域文化の理解や誇りの喪失
 - ・人口減少と高齢化・若者の流出
 - ・地域経済規模の縮小(地域の活力の衰退・都市機能の低下)
 - ・地域の生業・仕事の不足
- 直江津の課題
 - ・直江津らしい豊かな暮らしの実現と次世代への継承
 - ・歴史的街並みの喪失と空き家の増加
 - ・商店街の活性化(空き店舗や中心市街地衰退と郊外化)
 - ・多くの人を訪れる「うみがたり」などから市街地への周遊不足
 - ・高単価・滞在型宿泊施設の不足
 - ・無印良品等の大手事業者との連携

コンセプト検討の方向性

- ① 「新しい観光産業」を直江津の次世代の活力をつくる「新たな地域産業(生業)」として捉えて育てる。
- ② 地域のDNAである「まちづくりキーワード」を基本とした戦略・コンセプトとする。
- ③ 豊かな直江津の実現に向けて、まちづくりキーワードを尊重しながらまちづくりを進め未来につなぐ。
- ④ まちづくりとともに新たな観光産業づくり施策を実施し、滞在交流型観光地域づくりの礎をつくる。

<直江津地域：観光地域づくりコンセプト>

歴史と人情の「日本海うみまち」

- 歴史と新しさが交差する、日本海を代表する人情味あふれる豊かな「うみまち」の暮らしと生業づくり -

II

みなと町として繁栄してきた歴史文化のまち・直江津
その繁栄を支えてきた豊かな日本海 of 自然や景観に加えて、
うみがたりや国内最大級の無印良品、うみまちアートなど、新しい文化も生まれています。
その昔から人や物が交差してきたみなと町の歴史や浜っ子の人情を引き継ぎながらも、
新しい文化を取り入れた、歴史と新しさが交差する日本海を代表する、
豊かな「日本海うみまち」の暮らしと生業づくりを目指します。

<直江津地域：観光地域づくりコンセプト>

歴史と人情の「日本海うみまち」

- 歴史と新しさが交差する、日本海を代表する人情味あふれる豊かな「うみまち」の暮らしと生業づくり -

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり:住んでよし)

府中とみなと町の歴史文化と美しい日本海を誇りに、新しい文化を取り入れながら、歴史と新しさが交差する人情味あふれる豊かな「日本海うみまち」の暮らし

- ・誇りある直江津のまちや歴史文化を次世代に継承
- ・歴史文化が薫り日本海の自然と共にある人情あふれる豊かな暮らし
- ・活気ある充実した商店街と都市機能
- ・古いものを大切にしながら新たな文化も取り入れる柔軟性

地域の観光と生業の姿
(新しい観光産業の創出:訪れてよし)

直江津が目指す「日本海うみまち」の歴史文化、暮らし、人情を感じて滞在・消費する高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「日本海うみまち」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「日本海うみまち」の暮らしを体験できる歴史資源や空き家・空き地等を活用した面的なエリア・施設開発
- ・実施体制の確立

観光地域づくり実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「日本海うみまち」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
(個別施策の実施段階における基本計画や設計業務等)
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築
(地域を一体的にマネジメントできる組織の立ち上げ)



海の文化を楽しく学べる
水族博物館うみがたり



日本海を楽しむ
海水浴・体験アクティビティ



五智公園D51形蒸気機関車の
移設・動態化



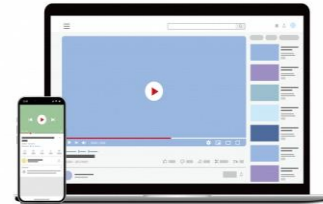
移動を楽しむ
レンタサイクル



キッチンカーや
トレーラーハウスの出店



商店街の空き店舗を改修活用した
店舗やオフィス



観光情報を気軽に得られる
観光案内サイト



日本海の景観を感じる
宿泊施設や住宅



うみまちの歴史や文化を学ぶ
地域ガイド



日本海のみなと町を感じる
古民家宿泊



うみまちの人情を感じる
地域の商店・飲食店



日本海を身近に楽しむ
海辺の公園

直江津地域(日本海海岸エリア)の将来イメージ

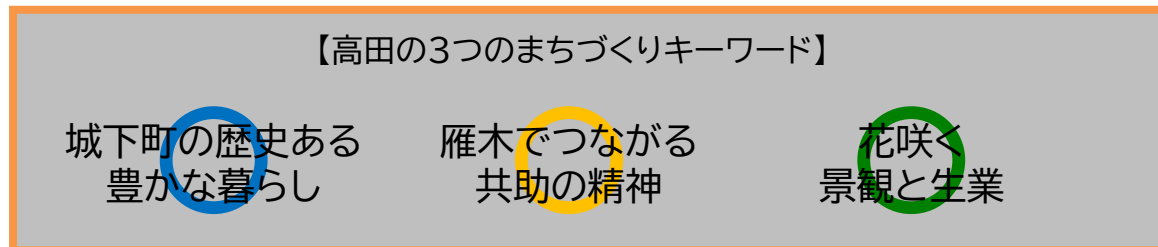
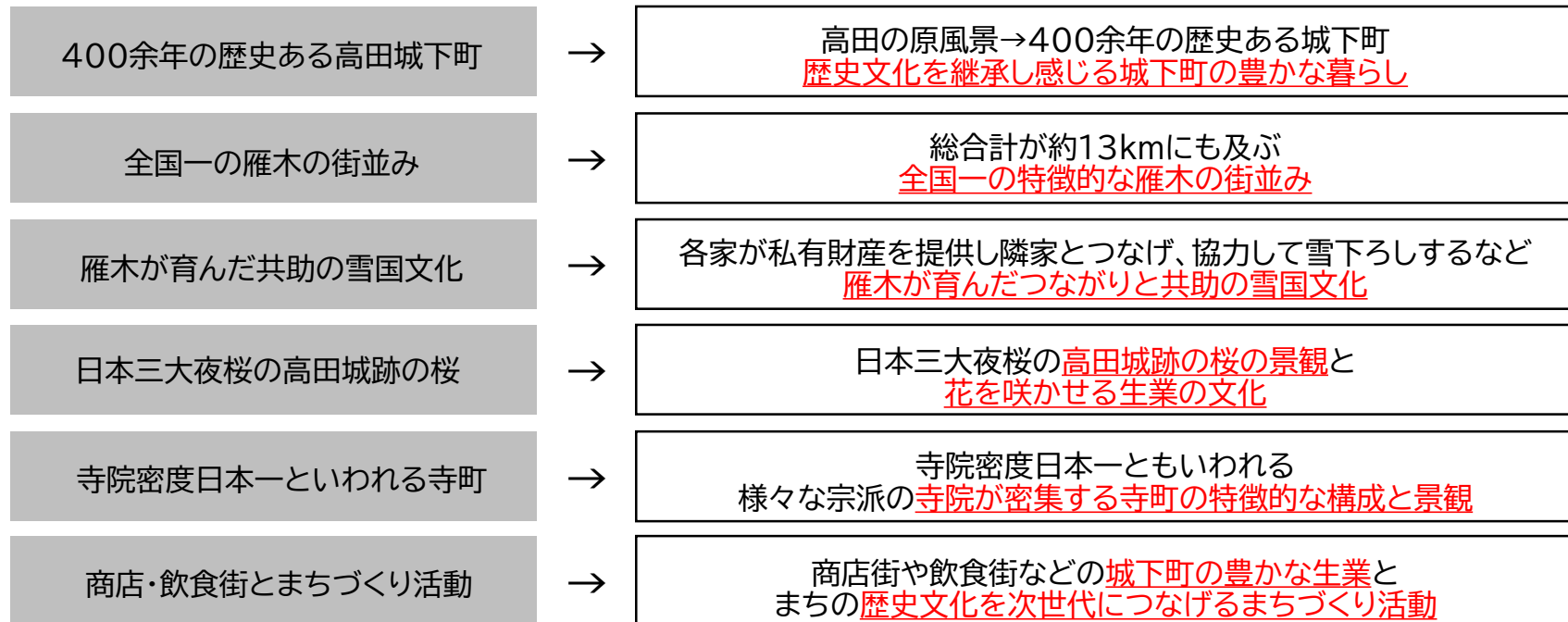


「国土地理院地図」(国土地理院) (<https://maps.gsi.go.jp/index.m.html#16/37.173705/138.238306/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)を基に作成

4 高田地域の方向性

高田地域：まちづくりキーワード(地域のDNA)

- 高田の地域ポテンシャルから導き出されるまちづくりキーワードを3つ設定した。
- この3つのキーワードを高田のまちづくりの本質(地域のDNA)として、今後のコンセプトや計画を検討する。



○コンセプトやコンセプト展開(観光地域づくりの考え方)に考慮する地域の状況

まちづくりキーワード(地域のDNA)	地域ポテンシャル	地域課題
<p>城下町の歴史ある豊かな暮らし</p> <p>雁木でつながる共助の精神</p> <p>花咲く景観と生業</p>	<ul style="list-style-type: none">●400余年の歴史ある高田城下町●全国一の雁木の街並み●雁木が育んだ共助の雪国文化●日本三大夜桜の高田城跡の桜●寺院密度日本一といわれる寺町●商店・飲食街とまちづくり活動	<ul style="list-style-type: none">●全域での課題<ul style="list-style-type: none">・地域文化の理解や誇りの喪失・人口減少と高齢化・若者の流出・地域経済規模の縮小(地域の活力の衰退・都市機能の低下)・地域の生業・仕事の不足●高田での課題<ul style="list-style-type: none">・高田らしい城下町の歴史を感じる豊かな暮らしと観光の実現と次世代への地域・歴史文化継承・歴史的街並みの喪失と空き家の増加・商店街の活性化(空き店舗や中心市街地衰退と郊外化)・各エリア間の周遊交通手段の不足・まちづくり推進体制の強化

コンセプト検討の方向性

- ① 「新しい観光産業」を高田の次世代の活力をつくる「新たな地域産業(生業)」として捉えて育てる。
- ② 地域のDNAである「まちづくりキーワード」を基本とした戦略・コンセプトとする。
- ③ 豊かな高田の実現に向けて、まちづくりキーワードを尊重しながらまちづくりを進め未来につなぐ。
- ④ まちづくりと共に新たな観光産業づくり施策を実施し、滞在交流型観光地域づくりの礎をつくる。

<高田地域：観光地域づくりコンセプト>

雁木でつながる「花咲く共助の城下町」

- 雁木の共助の精神が時代や縁をつなげる「新しい生業と暮らしが花咲く城下町」づくり -

||

400余年の歴史ある城下町・高田

そこには雁木でつながる共助の心意気が息づいています。

また、桜の名所として知られている高田は、花を咲かせる文化も息づいています。

それらの精神が、誇りある城下町の歴史文化を未来につなげ、
時代や人、物、情報をつなぎ、新たな生業と暮らしの花を咲かせる。

そんな「花咲く共助の城下町」を目指します。

<高田地域：観光地域づくりコンセプト>

雁木でつながる「花咲く共助の城下町」

- 雁木の共助の精神が時代や縁をつなげる「新しい生業と暮らしが花咲く城下町」づくり -

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり:住んでよし)

城下町や雁木の共助の精神を誇りに、
時代や縁をつなげ、新しい生業と暮らしが花咲く
雁木でつながる「花咲く共助の城下町」の暮らし

- ・誇りある高田の城下町の歴史文化を次世代に継承する
- ・雁木の街並みや共助の精神が継承され、城下町の歴史文化が薫る豊かな暮らしを目指す
- ・古いものを大切にしながらも新たな生業や居住を花咲かせるイノベーティブな取組を推進する

地域の観光と生業の姿
(新しい観光産業の創出:訪れてよし)

高田が目指す「花咲く共助の城下町」の
歴史文化、暮らし、精神を感じて滞在・消費する
高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「花咲く共助の城下町」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「花咲く共助の城下町」の暮らしを体験できる歴史資源や空き家・空き地等を活用した面的なエリア・施設開発
- ・実施体制の確立

観光地域づくり実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「花咲く共助の城下町」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
(個別施策の実施段階における基本計画や設計業務等)
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築
(地域を一体的にマネジメントできる組織の立ち上げ)



雁木の町家で城下町を感じながら滞在することができる古民家宿泊



枅形門の再現検討



商店街の空き店舗を改修活用した新しい感覚の店舗



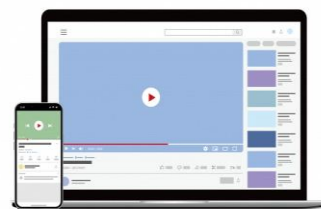
寺院での精神世界体験



歴史的な建物などを改修し古きをいかしながら快適に暮らす住宅



移動を楽しむレンタサイクル



観光情報を気軽に得られる観光案内サイト



歴史文化の趣きに囲まれて働くオフィス



住民も観光客も外国人も出会いが生まれる飲食店



城や桜を楽しむコンテンツやサービス



寺院ごとに異なる花が楽しめるオープンガーデン



城内から城下町までを学ぶ地域歴史ガイド



第4章 地域別施策

1 観光地域づくりコンセプト

全体計画(重点地域)

【観光地域づくりコンセプト】

越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気

春日山・直江津・高田の多様な3つの暮らしと心意気を誇りを持って示す滞在交流型観光地域づくり

重点地域①:春日山

義の心と強さに出会う
「謙信公の春日山城」

春日山城に抱か
れる豊かな暮らし

謙信公に出会う
(義の精神・勝負強さ)

自然と景観と
心に触れる

重点地域②:直江津

歴史と人情の
「日本海うみまち」

日本海うみまちの
新しい暮らし

人情と祭り
と商いの精神

府中とみなと町の
歴史と文化

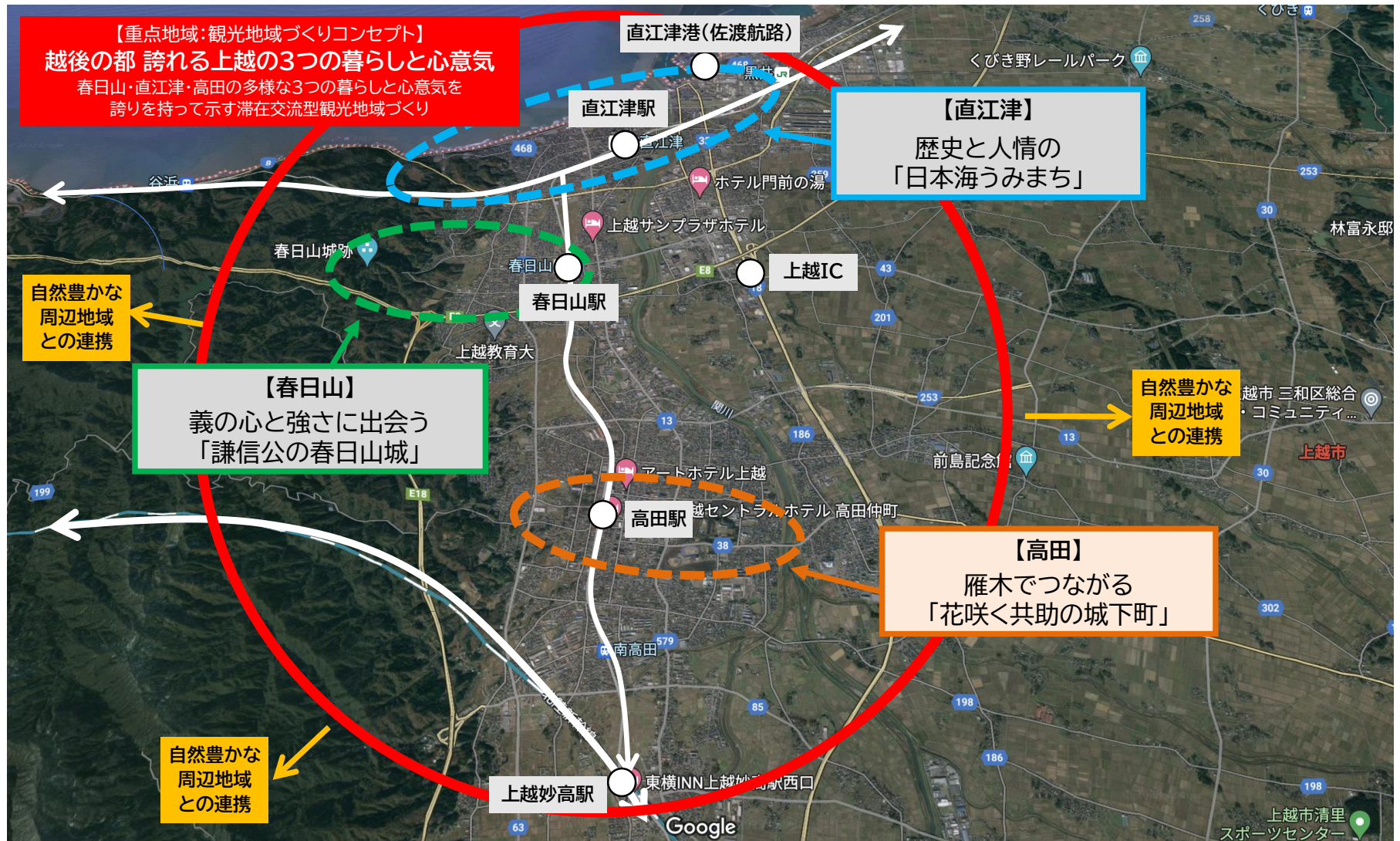
重点地域③:高田

雁木でつながる
「花咲く共助の城下町」

城下町の歴史ある
豊かな暮らし

雁木でつながる
共助の精神

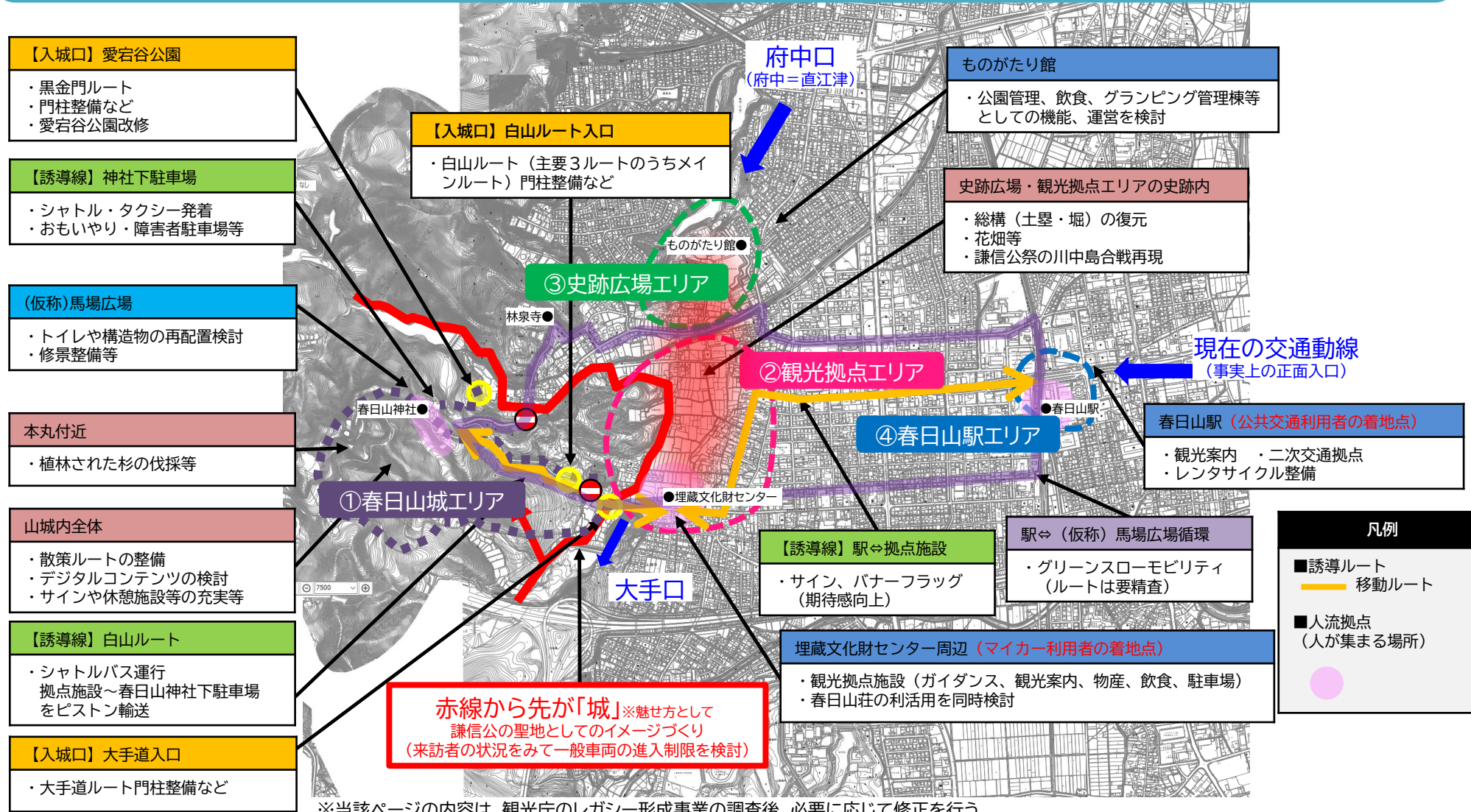
花咲く
景観と生業



2 春日山地域の施策

春日山地域：施策展開図

○ 観光地域づくりコンセプトである”義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」”の実現に向け、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。
【概算事業費3,680百万円】



【入城口】愛宕谷公園

- ・黒金門ルート
- ・門柱整備など
- ・愛宕谷公園改修

【誘導線】神社下駐車場

- ・シャトル・タクシー発着
- ・おもいやり・障害者駐車場等

(仮称)馬場広場

- ・トイレや構造物の再配置検討
- ・修景整備等

本丸付近

- ・植林された杉の伐採等

山城内全体

- ・散策ルートの整備
- ・デジタルコンテンツの検討
- ・サインや休憩施設等の充実等

【誘導線】白山ルート

- ・シャトルバス運行
- 拠点施設～春日山神社下駐車場をピストン輸送

【入城口】大手道入口

- ・大手道ルート門柱整備など

【入城口】白山ルート入口

- ・白山ルート（主要3ルートのうちメインルート）門柱整備など

府中口
(府中=直江津)

ものがたり館

- ・公園管理、飲食、グランピング管理棟等としての機能、運営を検討

史跡広場・観光拠点エリアの史跡内

- ・総構（土塁・堀）の復元
- ・花畑等
- ・謙信公祭の川中島合戦再現

③史跡広場エリア

②観光拠点エリア

④春日山駅エリア

春日山駅（公共交通利用者の着地点）

- ・観光案内
- ・二次交通拠点
- ・レンタサイクル整備

①春日山城エリア

【誘導線】駅⇄拠点施設

- ・サイン、バナーフラッグ（期待感向上）

駅⇄(仮称)馬場広場循環

- ・グリーンスローモビリティ（ルートは要精査）

埋蔵文化財センター周辺（マイカー利用者の着地点）

- ・観光拠点施設（ガイダンス、観光案内、物産、飲食、駐車場）
- ・春日山荘の利活用を同時検討

赤線から先が「城」※魅せ方として謙信公の聖地としてのイメージづくり（来訪者の状況をみて一般車両の進入制限を検討）

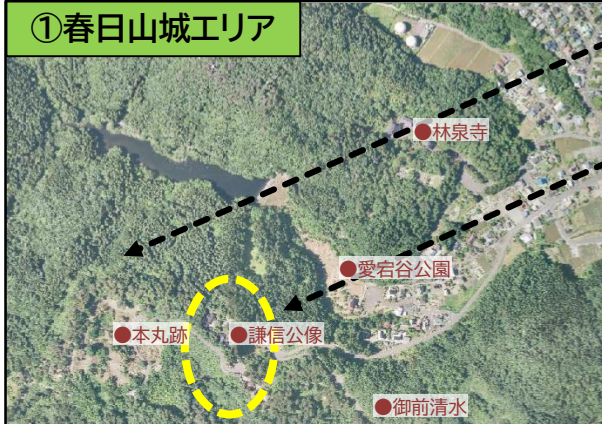
凡例

- 誘導ルート
- 移動ルート
- 人流拠点（人が集まる場所）

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。
※計画期間である令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により実施を判断する。 81

エリア別施策展開

①春日山城エリア



- 植林された杉を伐採し、現存する最古の写真の姿(約100年前)に復元する。
- 散策道の整備に加え、古道を整備し、山全体に手入れされた整然さと「城」の風格を創出していく。
- エリア全体に統一した案内サインを整備するとともに、ベンチ等の休憩施設を整備する。
- (仮称)馬場広場を修景整備するとともに、飲食・物産機能の強化を図る。
- 本丸～(仮称)馬場広場～神社下駐車場のトイレ配置を再検討し、改修する。また、駐車場の在り方を検討し、改修する。
- 白山、大手道、黒金門の3ルート of the 入口を整備する。



主な事業内容

(1)春日山城エリア整備検討

①春日山城エリア整備計画策定

「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、史跡区域内のトイレや駐車場、散策道、休憩施設、誘導サイン、排水処理・法面保護対策の整備計画を策定する。

②デジタルコンテンツ構築

「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、史跡区域内や観光拠点施設で体験するデジタルコンテンツを構築する。

(2)春日山城跡エリア整備【上記①に基づく実施】

③植林伐採

史跡保護を目的に、春日山城跡の北側の植林を伐採する。公有地等から段階的に実施していく。

④サイン・ベンチ・散策道・古道改修

階段の木道や安全柵、サイン、ベンチ等の休憩施設を整備する。

⑤エントランス整備

3ルート(大手道、白山、黒金門)の入口を整備する。

⑥愛宕谷公園改修

黒金門ルート of the 入口として愛宕谷公園を改修する。

⑦(仮称)馬場広場改修

謙信公像の移転検討を含め、(仮称)馬場広場を観光の目的地に相応しい高質な空間として演出するため、近隣地域の民間施設との連携を図りつつ、修景整備を行う。照明、休憩施設等を整備する。

⑧神社下駐車場(トイレ・舗装)改修

トイレや舗装を改修する。

スケジュール

	前期 (R6～R8)	中期 (R9～R10)	後期 (R11～R12)
①春日山城エリア整備計画策定	(観光コンテンツ計画等策定)・計画策定		
②デジタルコンテンツ構築	(観光コンテンツ計画等策定)	コンテンツ構築	
③植林伐採	伐採・維持管理	伐採・維持管理	維持管理
④サイン・ベンチ・散策道・古道改修	(①の策定)	工事	工事
⑤エントランス整備	(①の策定)・設計	工事	
⑥愛宕谷公園改修	(①の策定)・設計	工事	
⑦(仮称)馬場広場改修	(①の策定)・文化庁協議・設計	設計・工事	工事
⑧神社下駐車場(トイレ・舗装)改修	(①の策定)・文化庁協議・設計	工事	

概算事業費

	(百万円)
①春日山城エリア整備計画策定	10
②デジタルコンテンツ構築	20
③植林伐採	42
④サイン・ベンチ・散策道・古道改修	81
⑤エントランス整備	25
⑥愛宕谷公園改修	117
⑦(仮称)馬場広場改修	210
⑧神社下駐車場(トイレ・舗装)改修	36

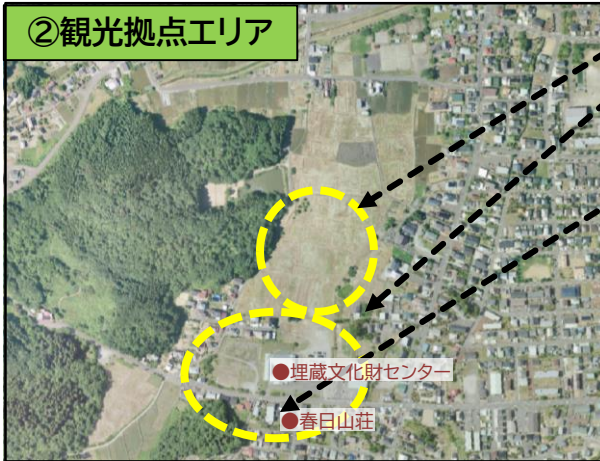
※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

エリア別施策展開

②観光拠点エリア



- 総構**の堀と土塁を復元し、植栽を行う。
- 埋蔵文化財センター周辺敷地**において、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能を備えた観光拠点施設を整備する。
シャトルバスを始め二次交通の発着場・主要経由地と位置付け、春日山地域回遊の拠点とする。
- 施設整備や運営は民間ノウハウを活用し、サウンディング型市場調査等により活用候補者選定後、施設整備を行う。
- 春日山荘を除却**し、観光拠点施設と一体的な施設を整備する。



主な事業内容

(1)「総構」復元整備事業

①「総構」復元整備(第1期)

総構の復元整備に向けて構想を検討し、文化庁と必要な協議を行う。※面積が広いため整備は実現可能な箇所から段階的に行う。

- 測量、復元設計・工事(約3ha)
- 植栽(在来種を基準に種類、箇所を検討していく)

(2)観光拠点施設整備事業

②観光拠点施設整備

「観光コンテンツ計画等(P87)」周辺の敷地の状況を踏まえ、観光拠点施設を整備する。機能は、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能とし、規模は約1,500㎡を想定する。(参考事例:妙高高原ビジターセンター=約840㎡)。

③春日山荘跡地整備

春日山城の入口に当たる場所であることから、観光拠点施設の駐車場不足に備えるなど、様々な活用方策を検討する。「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、春日山荘を除却し、利活用に向けて整備する。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①「総構」復元整備(第1期)	探査調査、発掘等、基本設計等	設計、工事	工事
②観光拠点施設整備	(観光コンテンツ計画等策定)・基本計画・設計	工事	
③春日山荘跡地整備	(観光コンテンツ計画等策定)・利活用検討	工事	

概算事業費

	(百万円)
①「総構」復元整備(第1期)	504
②観光拠点施設整備	2,149
③春日山荘跡地整備	140

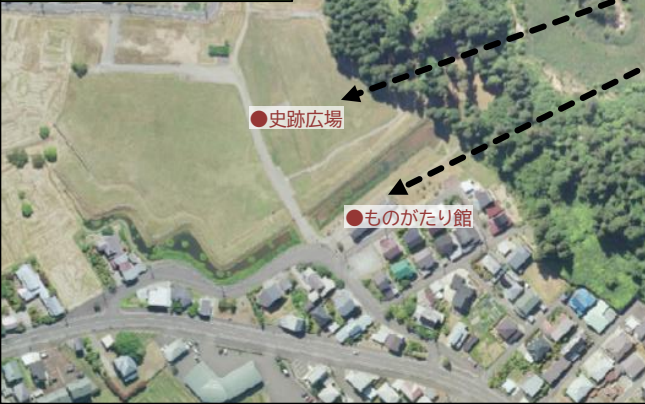
※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあつては、議会の審議を経て決定する。

エリア別施策展開

③史跡広場エリア



- 謙信公祭において川中島合戦の再現を行っている **史跡広場**について、**史跡を保存しながらも歴史を感じ楽しむことのできるアウトドア施設などとしての利活用方法を検討**する。
- 埋蔵文化財センター周辺に新たに観光拠点施設を整備することから、現在、春日山城のガイダンス施設と位置付けている「**ものがたり館**」について、**史跡広場と連動した公園管理、飲食、グランピング管理棟等としての機能、運営を検討**する。



主な事業内容

(1)ものがたり館、史跡広場の利活用

①ものがたり館、史跡広場の利活用

「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、歴史を感じ楽しむことができるアウトドア施設や飲食などを中心とした利活用に向けて、計画策定、市場調査、実証実験、施設改修を行う。

(2)ものがたり館等の運営体制構築

②ものがたり館等の運営スキーム・体制検討、運営者募集

周辺地域と一体的な運営スキーム・体制の検討を行い、運営者を募集する。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①ものがたり館、史跡広場の利活用	(観光コンテンツ計画等策定)	計画策定・市場調査	実証実験・設計・工事
②ものがたり館等の運営スキーム・体制検討、運営者募集			体制検討・構築

概算事業費

	(百万円)
①ものがたり館、史跡広場の利活用	51
②ものがたり館等の運営スキーム・体制検討、運営者募集	1

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。
 ※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

エリア別施策展開

④春日山駅エリア



- 春日謙信交流館に観光案内機能を新たに整備するとともに、電車利用客の移動手段とするため、**二次交通の実証実験**を行うとともに、結果を踏まえ二次交通を整備する。
- 春日山城来訪客の玄関口として、春日山駅に**春日山城や謙信公の雰囲気を感じることができる設え**を整える。



春日謙信交流館



二次交通



春日山駅

主な事業内容

(1)春日謙信交流館の機能拡充改修

①春日謙信交流館観光案内機能改修
「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、増築等の改修により観光案内機能を拡充する。合わせて駅周辺の雰囲気づくりを検討する。

②二次交通拠点機能改修
二次交通の実証実験結果を踏まえ、ロータリーなどの交通機能やレンタサイクル事業スペースの改修により二次交通拠点機能を拡充する。

(2)春日山駅演出事業

③春日山駅演出事業
「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、鉄道事業者と連携し、登城への期待感を高めるための春日山駅のラッピング、発着音の変更など、春日山城や上杉謙信公の雰囲気を演出する取組を検討し、実施する。

スケジュール	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①春日謙信交流館観光案内機能改修	(観光コンテンツ計画等策定)・検討、設計	工事	
②二次交通拠点機能改修		検討・設計	工事
③春日山駅演出事業	(観光コンテンツ計画等策定)・検討・事業者協議	工事	

概算事業費	(百万円)
①春日謙信交流館観光案内機能改修	31
②二次交通拠点機能改修	34
③春日山駅演出事業	5

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。
 ※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあつては、議会の審議を経て決定する。

エリア別施策展開

回遊動線

- 駅からの誘導や歓迎ムードづくりのため、謙信公大通り沿いにサイン及びバナーフラッグを整備する。
- **二次交通**の検討を行うため、シャトルバス、グリーンスローモビリティ及びレンタルサイクルの運行・整備を行う。

グリーンスローモビリティの運行

レンタサイクル整備

誘導サイン整備

主な事業内容

(1) 誘導サイン等整備

① **サイン整備**
「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、統一感のあるサインを整備する。

② **バナーフラッグ整備**
「観光コンテンツ計画等(P87)」を踏まえ、誘導や歓迎ムード演出のため、バナーフラッグを整備する。

(2) 二次交通整備

③ **グリーンスローモビリティ運行**
公共交通による来訪者に向けて、「回遊観光計画(P87)」を踏まえ、春日山駅と(仮称)馬場広場間で、グリーンスローモビリティの実証実験を行う。実験の結果を踏まえ、運行する。

④ **レンタサイクル整備**
公共交通による来訪者に向けて、「回遊観光計画(P87)」を踏まえ、春日山駅周辺において、レンタサイクルの実証実験を行う。結果を踏まえ、整備する。

⑤ **シャトルバス運行**
車での来訪者に向けて、「回遊観光計画(P87)」を踏まえ、埋蔵文化財センターから春日山神社下駐車場の区間で、シャトルバスの運行、その他の二次交通の可能性を調査するため、冬期を除く週末やハイシーズン等に実証実験を行う。実験の結果を踏まえ、運行する。

※観光客増加時の駐車場不足や渋滞対策について

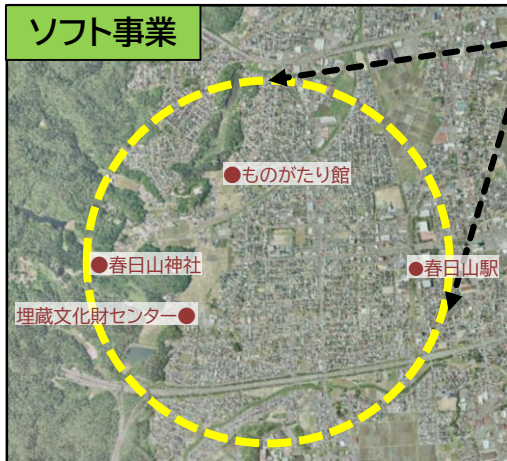
- 神社下駐車場やアクセス道路は史跡の範囲等であり、「保存管理計画」において地形改変等が制限され、新たな駐車場整備や道路拡幅は困難となっている。
- 解決策として、史跡範囲外に十分な駐車場を整備し、障害がある方等を除き、大手道入口から神社下駐車場までの間等で一般車両の進入制限を行うとともに、シャトルバス運行などの移動手段を検討する。
- このほか、交通規制を行う場合でも観光の快適性や魅力が向上するよう、登城することへの期待感を創出する取組を合わせて検討していく。
- 実施に当たっては、シャトルバス運行の実証実験を行い、近隣にお住まいの方々のご意見を踏まえて、規制の時期や方法などについて慎重に判断する。

スケジュール	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①サイン整備	(観光コンテンツ計画等策定)・工事	工事	
②バナーフラッグ整備	(観光コンテンツ計画等策定)	工事	工事
③グリーンスローモビリティ運行	(回遊観光計画策定)・実証実験	本運行	→
④レンタサイクル整備	(回遊観光計画策定)・実証実験	本運用	→
⑤シャトルバス運行	(回遊観光計画策定)	実証実験	実証実験・本運行

概算事業費	(百万円)
①サイン整備	31
②バナーフラッグ整備	66
③グリーンスローモビリティ整備	63
④レンタサイクル整備	13
⑤シャトルバス運行	24

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。
 ※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあつては、議会の審議を経て決定する。

エリア別施策展開



- 春日山地域の取組全体に関する基調色、統一フォント、シンボルマークなどの情報発信に関するルールを策定する。
- 集客が見込めるコンテンツや拠点施設機能等の市場調査を踏まえた**観光コンテンツ計画**を策定する。
- 地域全体の回遊観光に必要な整備を行うため、**回遊観光計画(案内所、二次交通、駐車場の最適化、全体サイン計画)**を策定する。
- 地域の子どもたちの郷土への誇りと愛着を育成する。
- 環境保全活動・研修活動等の収益化や維持管理・観光のマネジメント組織の検討を行う。

主な事業内容

(1)「観光コンテンツ計画・回遊観光計画・施設基本構想」等の策定

①「観光コンテンツ計画・回遊観光計画・施設基本構想」等の策定

- 市場調査により春日山地域全体の観光コンテンツ(春日山神社、林泉寺、ものがたり館等)の優先誘導先、機能分担等を検討・整理した計画を策定するとともに、観光案内所、最適な駐車場・公共交通・レンタサイクル・誘導サインなどの回遊に関するインフラ計画を策定する。
- 観光コンテンツ・インフラ関連等の各施設の基本構想を策定する。
- 取組全体に関する基調色、統一フォント、シンボルマークなどの情報発信に関するルールを策定する。

(2)地域学習の促進

②地域内の子どもたちの地域学習の促進

学校と連携し、謙信公や春日山城への誇りと愛着を育む。

(3)維持管理・観光のマネジメント組織の検討

③環境保全活動・研修活動等の収益化や維持管理・観光のマネジメント組織の検討

環境保全活動等の資金捻出や、有償ボランティアのモチベーションアップにつなげるとともに、ファンとのつながりを構築する活動を検討する。
春日山城跡や観光関連施設の維持管理等を行う組織を検討する。

(4)観光関連事業者の育成の検討

④観光関連事業者の育成

観光業の担い手となる人材の育成や、新たな取組への支援を検討する。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①「観光コンテンツ計画・回遊観光計画・施設基本構想」の策定	計画策定		
②地域内の子どもたちの地域学習の促進	検討	イベント等	イベント等
③維持管理・観光のマネジメント組織検討	組織検討	運営スキーム検討	設立
④観光関連事業者の育成	検討	検討・イベント等	イベント等

概算事業費

	(百万円)
①「観光コンテンツ計画・回遊観光計画・施設基本構想」の策定	21
②地域内の子どもたちの地域学習の促進	2
③維持管理・観光のマネジメント組織検討	2
④観光関連事業者の育成	2

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、必要に応じて修正を行う。

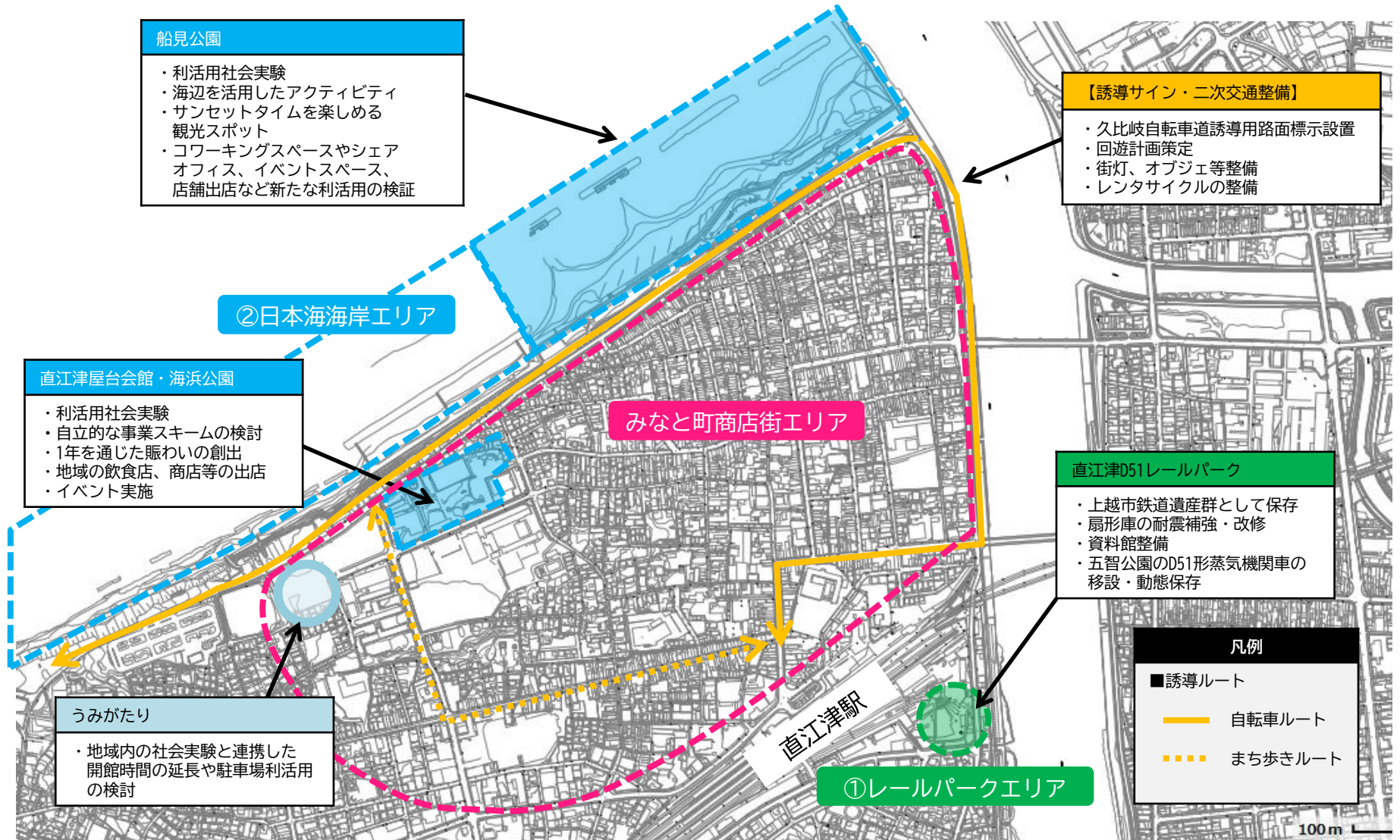
※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

3 直江津地域の施策

○ 観光地域づくりコンセプトである”歴史と人情の「日本海うみまち」”の実現に向け、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。

【概算事業費1,005百万円】



※計画期間である令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により実施を判断する。

直江津地域：エリア別施策展開

① レールパークエリア



- 市内全域の各種鉄道遺産を「上越市鉄道遺産群」として保存し、一時代を支えた鉄道の歴史や文化を後世に伝えていく。
- その取組の一環として、新潟県鉄道発祥の地である「直江津D51レールパーク」を一部鉄道遺産の集約施設として位置付け、整備・保全・継承していく。
- 五智公園のD51形蒸気機関車を移設・動態保存し、乗車体験や運転体験を行う。



主な事業内容

(1) 上越市鉄道遺産群活用事業

① 上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定

市内鉄道遺産の現状把握及び評価を行うとともに、市独自の認定制度について検討し、上越市鉄道遺産群活用基本計画を策定する。
資料展示機能・集客機能の拡充や扇形庫の耐震補強、五智公園のD51形蒸気機関車の移設・動態化を見込んだ直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)の基本構想を策定する。

(2) 鉄道博物館整備事業

② 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)

- 基本設計・実施設計
上越市鉄道遺産群活用基本計画を受けて、直江津D51レールパークの拡充に向けた設計を行う。
- 整備工事
扇形庫の耐震改修、鉄道遺産の展示、資料館等の整備を行う。

(3) D51形蒸気機関車75号機 移設・動態化事業

③ D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存

五智公園のD51形蒸気機関車を直江津D51レールパークに移設し、圧縮空気を動力源とするコンプレッサー方式で動態保存し、乗車体験や運転体験を行う。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
① 上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定	計画策定		
② 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)		建設・改修	
③ D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存	関係者調整	移設・動態化	

概算事業費

	(百万円)
① 上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定	10
② 直江津D51レールパーク拡充整備(鉄道博物館)	464
③ D51形蒸気機関車75号機 移設・動態保存	64

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

五智公園D51
形蒸気機関車



【現状】
上越市地域の宝

新潟県鉄道発祥の地
【直江津駅周辺】

直江津
図書館

犀潟駅

県内最古の木造駅

集約

展示
資料

移設

直江津D51
レールパーク
(扇形庫・転車台)



上越市鉄道遺産群

有間川
駅

戦後(昭和21年)
仮乗降場として開業

高田駅

レールを再利用した
ホーム支柱

二本木駅
スイッチ
バック



【現状】
駅舎等7件
(国登録有形文化財)

イベント時
シャトルバス運行
(直江津駅)

くびき野
レール
パーク



【上越市外】

新津
鉄道
資料館

碓氷峠
鉄道文
化むら

直江津関連の鉄道資料有り

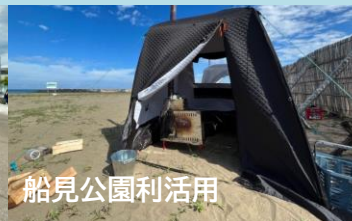
【現状】
・コッパル号(市文化財)
・車庫、資料館
(国登録有形文化財)
・くびき野レールパーク
(上越市地域の宝)

直江津地域：エリア別施策展開

②日本海海岸エリア



- 「直江津屋台会館・海浜公園」と「船見公園」において、地域の活性化に資する施設の利活用に向けた**社会実験**を行う。
- 実験結果を基に、各施設に必要な**改修、備品配置等**を行う。
- 「直江津屋台会館・海浜公園」では、**年間を通じて賑わいを創出**し、利活用が生業として継続できる事業スキームの構築を目指し、実験結果を踏まえ地域を一体的にマネジメントできる組織を検討する。



主な事業内容

(1)直江津屋台会館・海浜公園利活用

①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験・自立的な事業スキームの検討

- 新たな観光産業や賑わい拠点の創出、直江津地域を一体的にマネジメントできるまちづくり組織の検討を目的とし、社会実験を行う。
- うみがたりへの来場者をターゲットに、年間を通じた新たな賑わいを創出する。
- 定期的なイベントや飲食、物販の出店を行うことで、飲食店等を営む地域の人が気軽に店出でき、稼げる仕組みの構築を目指す。
- 実験結果をもとに、収益を得ながら生業として継続できる事業スキーム、当該スキームを基盤としたまちづくり組織の実現可能性の検討、屋台会館及び海浜公園の環境整備に繋げる。

②直江津屋台会館・海浜公園環境整備

社会実験での検証を基に必要な施設改修、備品配置等を行う。

③直江津屋台会館・海浜公園利活用試験運用・本運用

環境整備後の試験運用を経て、本運用を目指す。

(2)船見公園利活用

④船見公園利活用社会実験

- 新たな目的地・回遊拠点・賑わいの創出を目的とし、社会実験を行う。
- 海辺を活用したアクティビティの体験やサンセットタイムのゆったりとした時間を楽しめる空間の演出、海を感じることができるコワーキングスペースやシェアオフィス、店舗出店新たな利活用の検証を行う。
- 直江津屋台会館・海浜公園の社会実験同様、収益を得ながら生業として継続できる事業スキームを構築するとともに、環境整備に繋げる。

⑤船見公園環境整備

社会実験での検証を基に必要な施設改修、備品配置等を行う。

⑥船見公園利活用試験運用・本運用

環境整備後の試験運用を経て、本運用を目指す。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験・自立的な事業スキームの検討	社会実験		
②直江津屋台会館・海浜公園環境整備	社会実験を踏まえた環境整備		
③直江津屋台会館・海浜公園利活用		運用開始	
④船見公園利活用社会実験		社会実験	
⑤船見公園環境整備			社会実験を踏まえた環境整備
⑥船見公園利活用			運用開始

概算事業費

	(百万円)
①直江津屋台会館・海浜公園利活用社会実験・自立的な事業スキームの検討	30
②直江津屋台会館・海浜公園環境整備	163
③直江津屋台会館・海浜公園利活用	0
④船見公園利活用社会実験	30
⑤船見公園環境整備	170
⑥船見公園利活用	0

※船見公園の利活用については、令和6年能登半島地震を受け、社会実験実施までの間に防災面からの検討をさらに行うこととする。
 ※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあたっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

直江津地域：エリア別施策展開

回遊動線



- 二次交通の検討を行うため、海沿いにおいて、**レンタサイクルの整備**を行う。
- 誘導サインや、歓迎ムードづくりのための街灯、オブジェ等の整備を行う。



主な事業内容

(1) 誘導サイン整備

① 久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業

直江津駅から久比岐自転車道の区間において、路面標示を設置し、サイクリストが迷わず、安全にサイクリングを楽しむことができる環境を提供する。

② 回遊計画策定

表示する内容や設置位置、意匠を定めたサイン、街灯、オブジェ等の整備など、回遊に関する計画を策定し、来訪者の回遊性の向上を図る。

③ 街灯及びオブジェ等整備

回遊計画を踏まえ、誘導や歓迎ムード演出のため、街灯及びオブジェ等を整備する。

(2) 二次交通整備

④ レンタサイクル整備

海沿い周辺において、レンタサイクルを整備する。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業	路面標示設置		
②回遊計画策定			計画策定
③街灯及びオブジェ等整備			整備
④レンタサイクル整備	実証実験	本運行	→

概算事業費

	(百万円)
①久比岐自転車道誘導用路面標示設置事業	2
②回遊計画策定	3
③街灯及びオブジェ等整備	56
④レンタサイクル整備	13

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。

※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

4 高田地域の施策

高田地域：施策展開図

○ 観光地域づくりコンセプトである”雁木でつながる「花咲く共助の城下町」”の実現に向けて、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。
【概算事業費 234百万円】

大町通り
・雁木町家の空き家を活用（店舗・住居・宿泊施設等）

高田小町・旧今井染物屋
・拠点施設としての役割、在り方検討

観光案内所
・観光案内機能、移転の検討

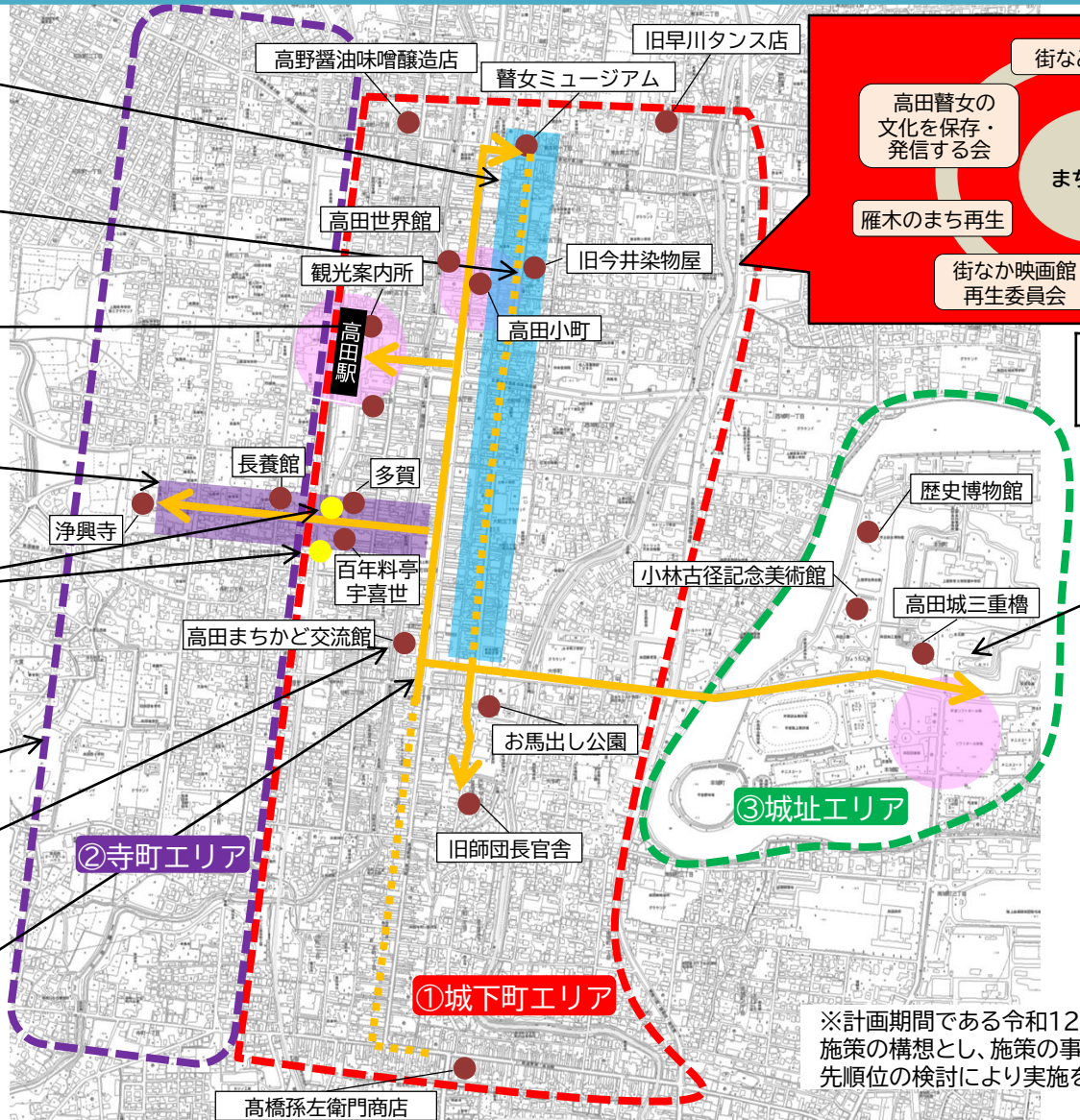
浄興寺大門通り
・道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる修景整備

浄興寺大門通り
・菓子製造販売所の開業や集客施設の新設を検討中（民間）

寺院群
・寺町の新魅力アップ検討・発信
・観光と住みやすさの共存検討・景観形成

高田本町百年商店街
・高田まちかど交流館賑わい創出社会実験

【誘導ルート】
・回遊サインの改修
・レンタサイクル、グリーンスローモビリティ



街なみFOCUS

- 高田誓女の文化を保存・発信する会
- 雁木のまち再生
- 街なか映画館再生委員会
- お馬だしPJT
- 雁木ねっとわーく
- 高田本町百年商店街実行委員会
- あわゆき組

主なまちづくり団体

団体名は例示

・一体的なエリアマネジメントが可能な専門的なまちづくり会社
・持続可能で稼げる組織へ

高田城址公園
・枅形門再現可能性調査研究

凡例

- 誘導ルート
 - まち歩きルート
 - - - 準まち歩きルート
- 人流拠点（人が集まる場所）

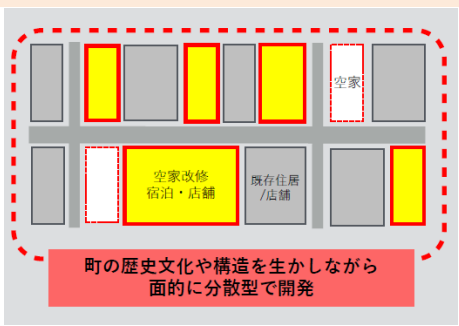
※計画期間である令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により実施を判断する。

高田地域：エリア別施策展開

①城下町エリア



- 一体的なエリアマネジメントを行い、稼げる持続可能なまちづくり組織の検討
- 街並み保全に資する既存支援制度の拡充



- 観光案内所(高田駅前)、拠点施設(高田小町・旧今井染物屋)の役割、在り方等の検討
- 高田まちかど交流館で市内外からの日常的な賑わいを創出するための社会実験を行う。



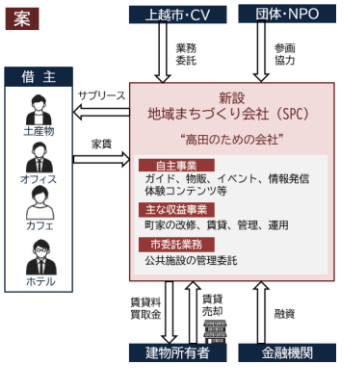
主な事業内容

(1)持続可能なまちづくり組織検討

①持続可能なまちづくり組織検討
各団体のまちづくりの取組をつなぎ、公共施設の管理業務や雁木町家の空き家を活用(店舗・住居・宿泊施設等)した収益事業を行いながら、生業として自走し、観光に資する体験コンテンツの造成や情報発信等一体的なエリアマネジメントができる組織の設立を目指す。

(2)街並み保全に資する既存支援制度の拡充

②街並み保全に資する既存支援制度の拡充
雁木整備事業補助金等の既存補助制度の拡充を検討し、雁木や町家による街並み保全に資する支援の強化を図る。



(3)観光案内・拠点施設在り方検討

③観光案内在り方検討
観光案内所としての役割、在り方、必要な機能について再検討し、必要に応じて移設や施設改修等を行う。

④高田小町、旧今井染物屋機能再検討
歴史文化をいかしたまちづくりの拠点として整備した高田小町、旧今井染物屋の在り方について、観光案内所の在り方検討と合わせ、管理運営方法を検討し、必要に応じて機能追加や施設改修等を行う。

(4)高田まちかど交流館活用社会実験

⑤高田まちかど交流館賑わい創出社会実験
貸館であるホールを活用し、市内外からの日常的な賑わい創出をできるように、市民の活動発表に加えてコレクション展示や物販等の社会実験を行い、地域の稼げる場所を目指す。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①持続可能なまちづくり組織検討(民間)	組織検討・設立		
②街並み保全に資する既存支援制度の拡充	検討・拡充	支援実施	支援実施
③観光案内在り方検討	在り方検討		
④高田小町、旧今井染物屋機能再検討	機能検討		
⑤高田まちかど交流館賑わい創出社会実験		社会実験	本運用

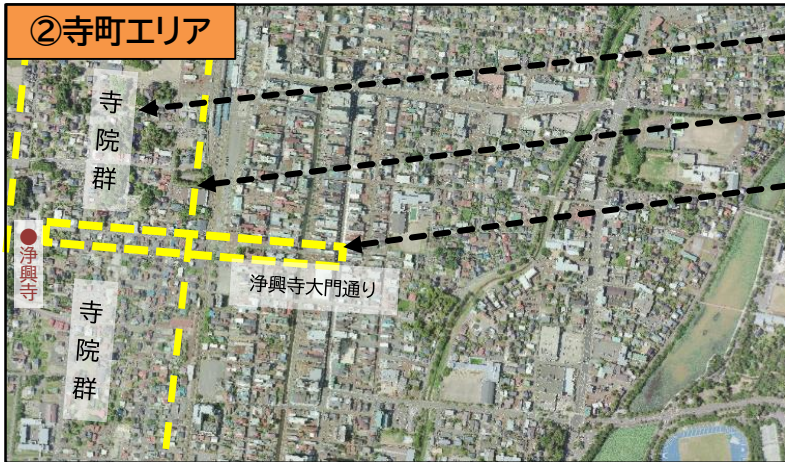
概算事業費

	(百万円)
①持続可能なまちづくり組織検討	1
②街並み保全に資する既存支援制度の拡充	30
③観光案内在り方検討	0
④高田小町、旧今井染物屋機能再検討	0
⑤高田まちかど交流館賑わい創出社会実験	5

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあたっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

高田地域:エリア別施策展開

②寺町エリア



- 「花の寺町」、「寺町でカフェ」など新たな魅力の創造やデジタルコンテンツの活用など、寺町の**魅力アップ**に向けた検討、取組を行い、その魅力を発信していく。
- 住居区域において、住民、寺院、行政が連携し、先進地の事例を研究しながら、観光と住みやすさの共存を検討するワークショップを開催し、観光地域づくりにつながる**景観形成**の取組等を行っていく。
- 浄興寺大門通りにおいて、道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる景観の整備を行う。



主な事業内容

(1) 寺町の魅力アップ

- ① 寺町の魅力アップ検討会
「花の寺町」、「寺町でカフェ」など、新たな魅力の創造やデジタルコンテンツを活用した発信など、魅力アップ検討会を開催する。
- ② 寺町の魅力発信
各寺院での体験や魅力をつなぎ合わせたモデルコースをホームページ(上越観光Navi)等により発信するとともに、地元まちづくり協議会と連携し、寺町散策マップの更新、増刷を行う。

(2) 景観形成

- <住居区域>
- ③ 観光と住みやすさ共存検討ワークショップ・景観形成の取組
住民、寺院、行政が連携し、先進地の事例を研究しながら、観光と住みやすさの共存を検討し、観光地域づくりにつながる景観形成の取組等を行っていく。
- <浄興寺大門通り>
- ④ 浄興寺大門通り修景整備計画の策定・整備
高田本町通り(北国街道)から寺町エリアへの誘導ルートに位置付けている「浄興寺大門通り」において、住民等とともに道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる修景の整備計画を策定し、修景整備を行う。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
① 寺町の魅力アップ検討会	検討会		
② 寺町の魅力発信	発信・マップ増刷	→	→
③ 観光と住みやすさ共存検討ワークショップ・景観形成の取組	ワークショップ開催・取組実施	取組実施	
④ 浄興寺大門通り修景整備計画の策定・整備	計画策定等	整備	

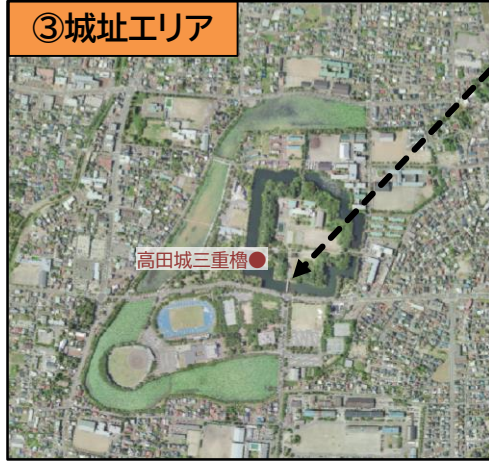
概算事業費

	(百万円)
① 寺町の魅力アップ検討会	0
② 寺町の魅力発信	1
③ 観光と住みやすさ共存検討ワークショップ・景観形成の取組	12
④ 浄興寺大門通り修景整備計画の策定・整備	103

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあっては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあたっては、議会の審議を経て決定する。

高田地域：エリア別施策展開

③城址エリア



●令和2年に文化庁が「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」を決定し、史実に忠実な従来の「復元」とは別に、学術的な調査を尽くしても史資料が十分にそろわない場合に、それらを多角的に検証して再現することで、史跡等全体の保存及び活用を推進する行為を「復元的整備」として定義し、再建可能としたことから**再現の可能性に向けた調査研究を行う。**



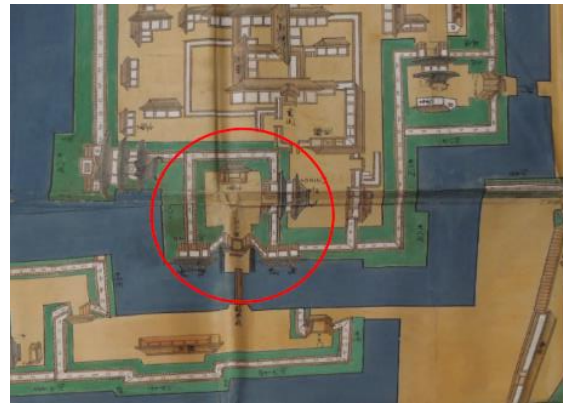
主な事業内容

(1) 柵形門再現可能性調査研究

① 柵形門再現可能性調査研究

基礎資料の整理、新たな資料の調査、各種課題の抽出及び検討課題の整理を行い、再現可能性について調査研究する。整備について、調査研究の結果を踏まえ検討を行う。

高田城内絵図



（榑原家所蔵・公財旧高田藩和親会管理
「榑原家史料」）

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①柵形門再現可能性調査研究	調査研究		

概算事業費

	(百万円)
①柵形門再現可能性調査研究	13

※令和12年度までに具体化を目指す施策の構想とする。ただし、施策の事業化にあつては、財源及び優先順位の検討により計画期間内における実施を判断する。
 ※「概算事業費」は事業規模の目安であり、標準単価等から算出した概算金額。各施策の事業化にあつては、議会の審議を経て決定する。

高田地域：エリア別施策展開

回遊動線



- 歩行者の誘導ルートの考え方や優先的に誘導する施設等を定めた「高田街なか回遊サインマニュアル(平成31年3月策定)」を改訂し、**誘導ルートの考え方を再整理**する。
- 二次交通**は、高田駅⇄高田城址公園間の路線バスが多くあるため公共交通の見える化を行うとともに、グリーンスローモビリティ及びレンタルサイクルの運行・整備を行う。



誘導サイン改修



グリーンスローモビリティの運行



レンタサイクル整備

主な事業内容

(1)高田街なか回遊サイン

①高田街なか回遊サインマニュアルの改訂
策定から5年が経過したため、誘導ルートの考え方や優先的に誘導する施設等を見直しマニュアルを改訂する。

②サイン改修
施設等の変化を修正するため、サインの表示を刷新するとともに、サイン表示を活用して収入を得る仕組みを検討する(飲食店紹介による広告料等)。

(2)二次交通整備

③グリーンスローモビリティ運行
運行ルートを検討し、実証実験の結果を踏まえ、運行する。

④レンタサイクル整備
高田城址公園周辺において、レンタサイクルを整備する。

スケジュール

	前期 (R6~R8)	中期 (R9~R10)	後期 (R11~R12)
①高田街なか回遊サインマニュアルの改訂		改訂	
②サイン改修		改修	
③グリーンスローモビリティ運行		実証実験	本運行
④レンタサイクル整備	実証実験	本運用	→

概算事業費

	(百万円)
①高田街なか回遊サインマニュアルの改訂	2
②サイン改修	5
③グリーンスローモビリティ運行	49
④レンタサイクル整備	13

付属資料

策定経過

- 本計画の策定に当たっては、令和4年度及び令和5年度の2か年にわたって検討を行った。
- 令和4年度は、庁内の若手を中心とした部局横断の検討チームが、参考となる事例収集や当市の歴史文化等の学習、キーパーソンとなる地域の方々から、地域の現状をお聞きすることなど、当市における通年観光の検討に必要となる情報収集等に取り組んだ。
- 令和5年度は、通年観光の基本方針や具体的な施策を計画としてとりまとめるため、担当部局を中心に、令和4年度に収集した各種の背景情報を基に議論の土台となる計画のたたき台を作成し、春日山、直江津、高田それぞれの主要な団体の皆さまと意見交換を実施するとともに、いただいた意見や考えは計画に反映し、とりまとめている。令和5年度に実施した意見交換の参加団体は下記のとおり。

計画策定に向けて令和5年度に意見交換を行った団体

■春日山地域

団体名
<ul style="list-style-type: none"> ・春日山城跡保存整備促進協議会 ・春日山神社 ・上越観光コンベンション協会 ・上越商工会議所

■直江津地域

検討区分	団体名
鉄道	・直江津まちづくり活性化協議会
食	・直江津まちづくり活性化協議会 ・飲食業者
周遊・海沿い	・直江津まちづくり活性化協議会

■高田地域

検討区分	団体名
雁木町家	<ul style="list-style-type: none"> ・越後高田・雁木ねっとわーく ・雁木のまち再生 ・城下町高田まちねっと ・高田瞽女の文化を保存・発信する会 ・街なみFocus
寺町	<ul style="list-style-type: none"> ・浄興寺大門通りまちづくり協議会 ・寺町まちづくり協議会

※「 」内は検討区分

年月	団体との意見交換	市民の皆さんとの意見交換	議会説明
令和5年 5月	○高田地域「雁木町家」(5/25) ○春日山地域(5/26) ○高田地域「寺町」(5/31) ※同日に2回		○通年・広域観光推進特別委員会勉強会(5/26)
6月	○直江津地域「周遊・海浴い」(6/14~7/7) ※個別訪問 ○直江津地域「食」(6/19~8/1) ※個別訪問 ○直江津地域「鉄道」(6/20~7/14) ※個別訪問		
7月	○春日山地域(7/5)		
8月	○高田地域「寺町」(8/8) ○高田地域「寺町」(8/10) ○直江津地域「周遊・海浴い」「食」(8/23) ○高田地域「雁木町家」(8/31)	○市民と市長との対話集会【直江津地域】(8/17) ○市民と市長との対話集会【春日山地域】(8/28) ○市民と市長との対話集会【高田地域】(8/30)	
9月	○直江津地域「鉄道」(9/5) ○春日山地域(9/14) ○高田地域「寺町」(9/29) ※同日に2回		
10月	○高田地域「雁木町家」(10/3) ○直江津地域「周遊・海浴い」「食」(10/10) ○直江津地域「鉄道」(10/11)		
11月	○春日山地域(11/1) ○直江津地域(11/2) ○高田地域(11/6)		○通年・広域観光推進特別委員会(11/15)
令和6年 1月 (予定)		上越市通年観光計画(案)についてパブリックコメント実施(1/下旬~2/下旬)	○通年・広域観光推進特別委員会(1/18)
3月 (予定)		上越市通年観光計画(案)についてパブリックコメント結果公表(3/下旬~4/下旬)	

上越市通年観光計画

令和6年 月策定

上越市文化観光部魅力創造課

〒943-8601新潟県上越市木田1丁目1番3号

T E L (025)520-5739 FAX (025)520-5853

メール miryokusouzou@city.joetsu.lg.jp

U R L <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>